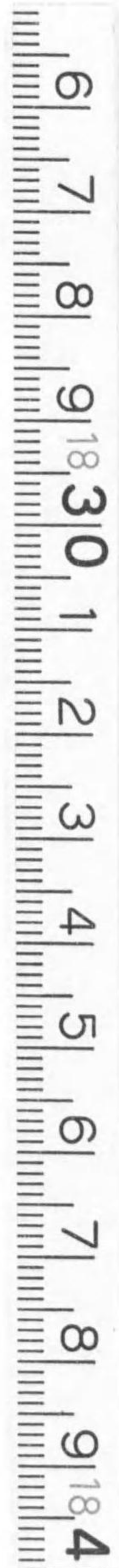


特200

818

仙臺市大觀



會協業産北東

始







お買物は！

清新なる

優秀百貨充實の

皆様の藤崎へ

重賞第一

商品券

一圓より御調製

藤崎

電話(代表)四三〇〇番



味はごりごり

最高至醇の二大ビール

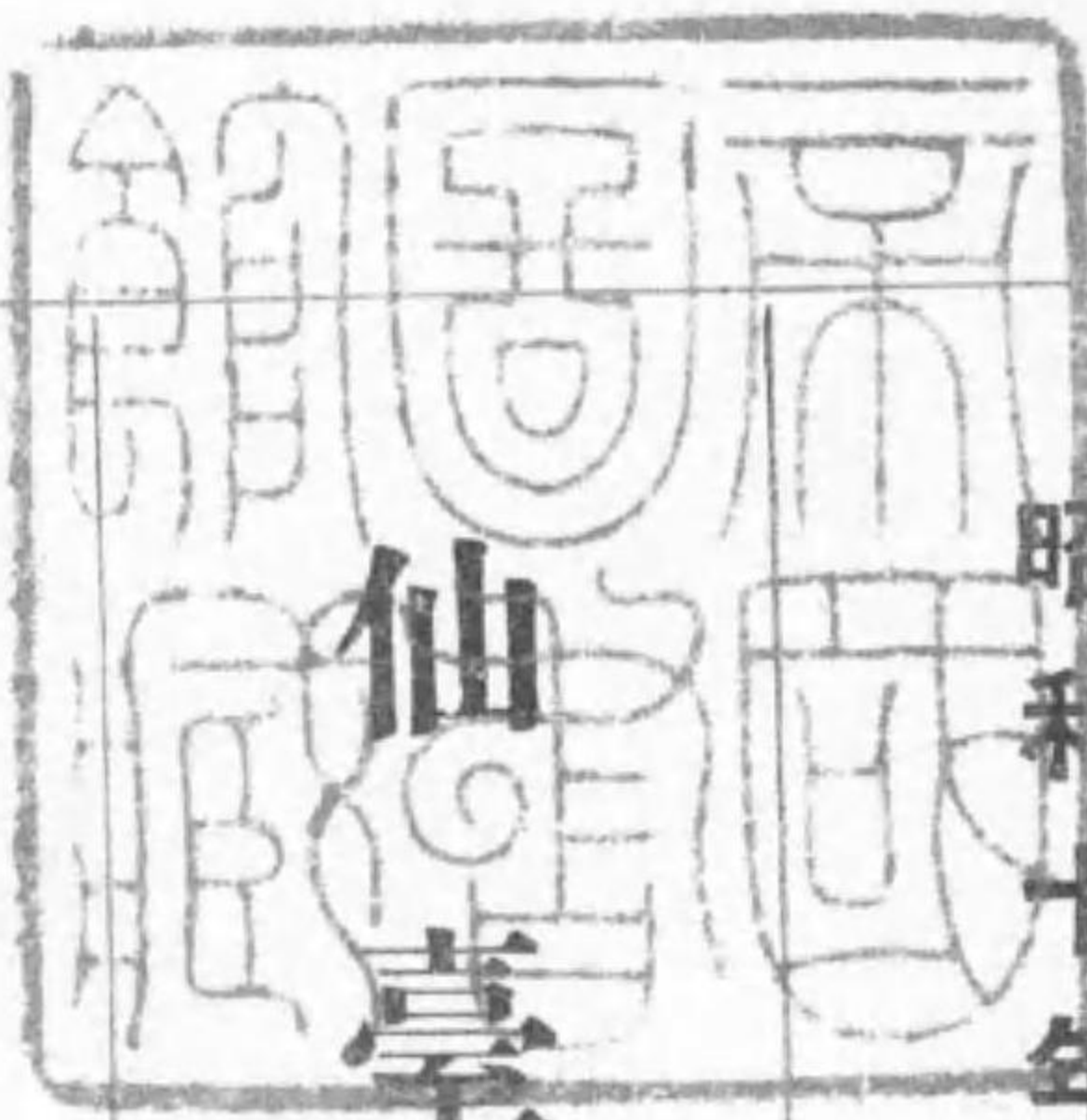


ルビースピア

ルビンオニユ



特 200  
818



昭和十年五月

市大觀

東北産業協會



日本銀行代理店

資本金九百萬圓

仙臺市大町

株式會社

七十七銀行

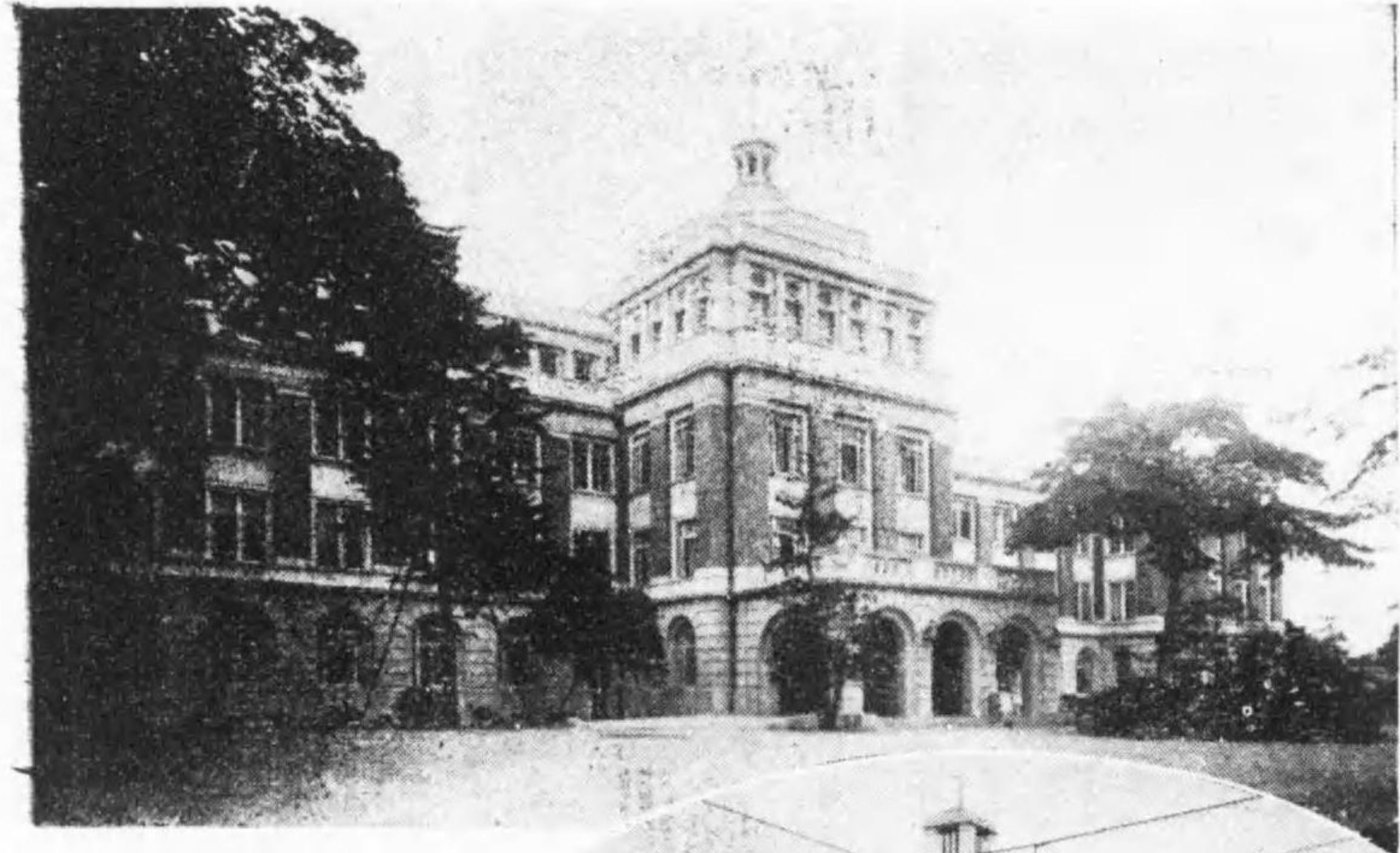
頭取 大庭經之輔

副頭取 氏家清吉

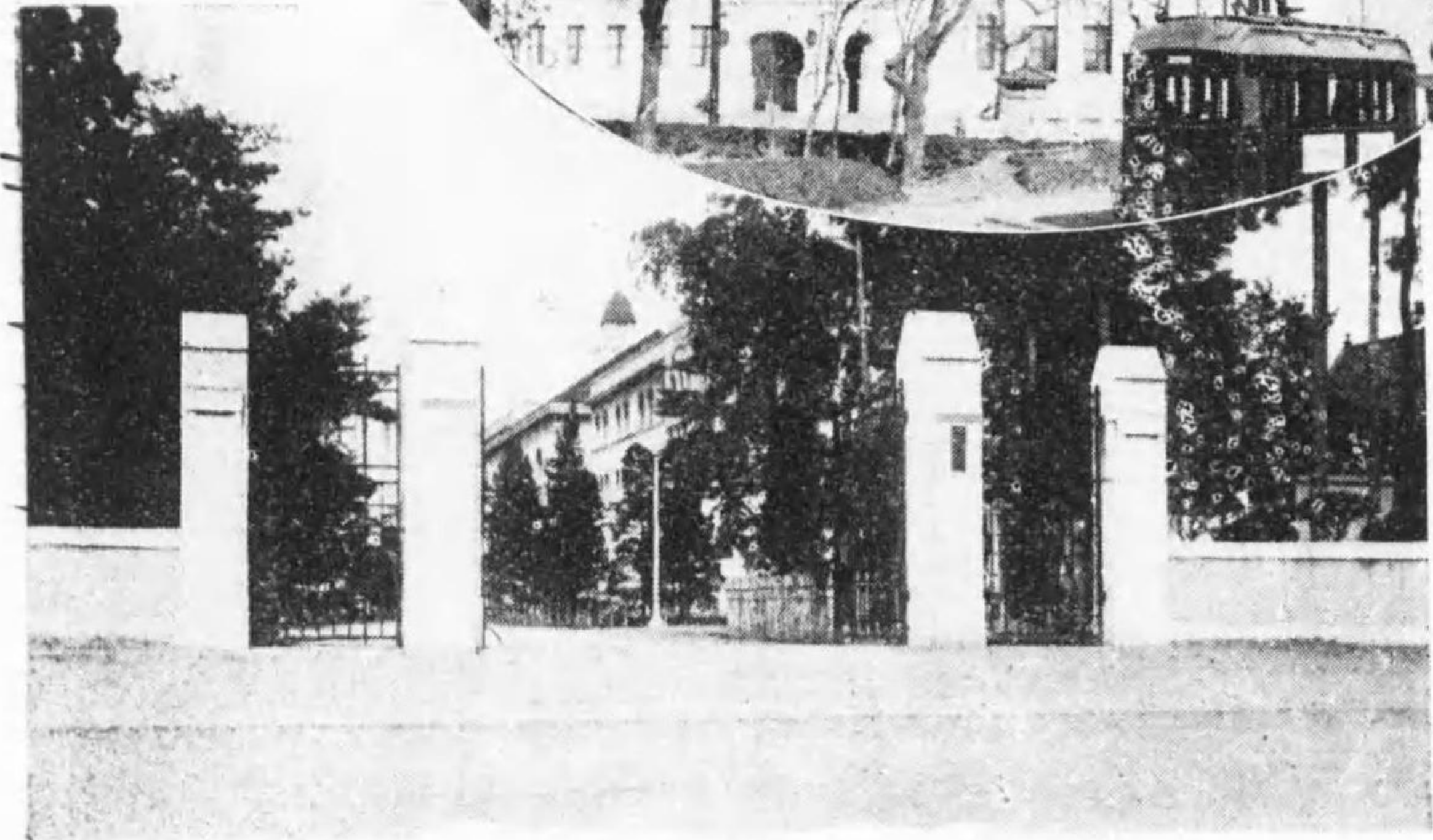
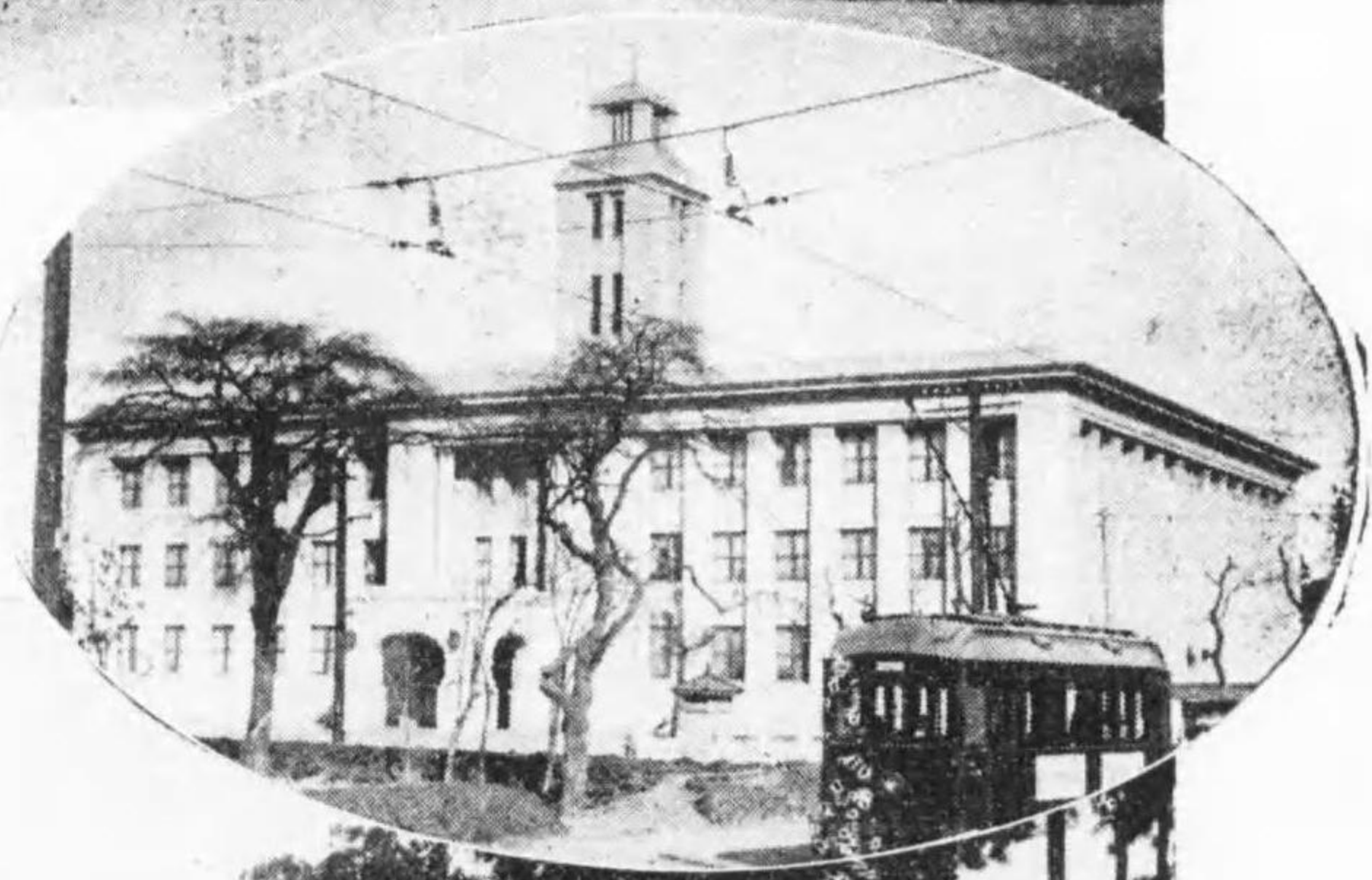
專務取締役 中村梅三



宮城縣廳



仙臺市役所



東 北 帝 國 大 學





舊仙臺城大手門  
(第二師團司令部)



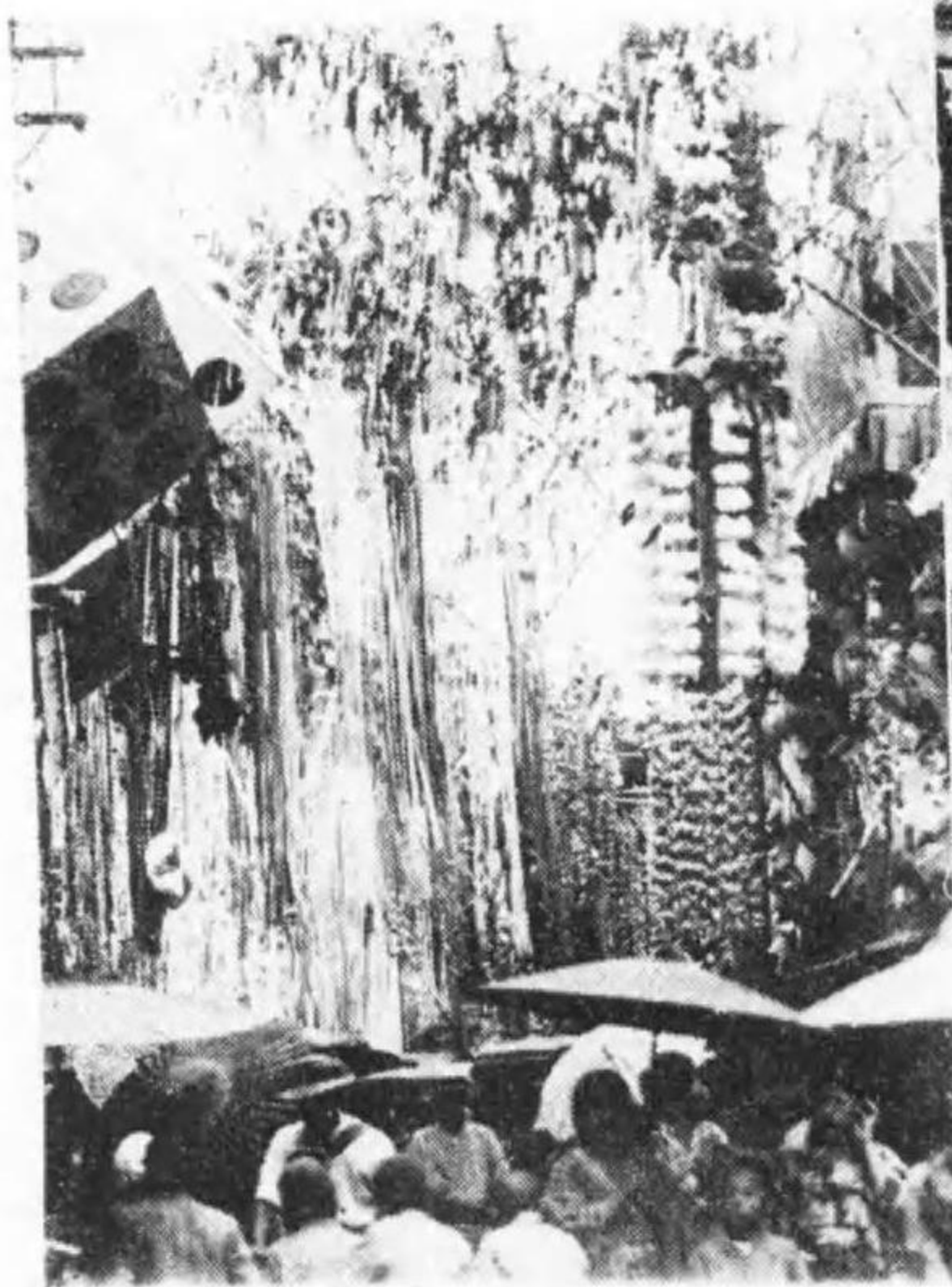
天臺の  
昭忠塔



八木山橋



仙臺名物  
七夕の祭観



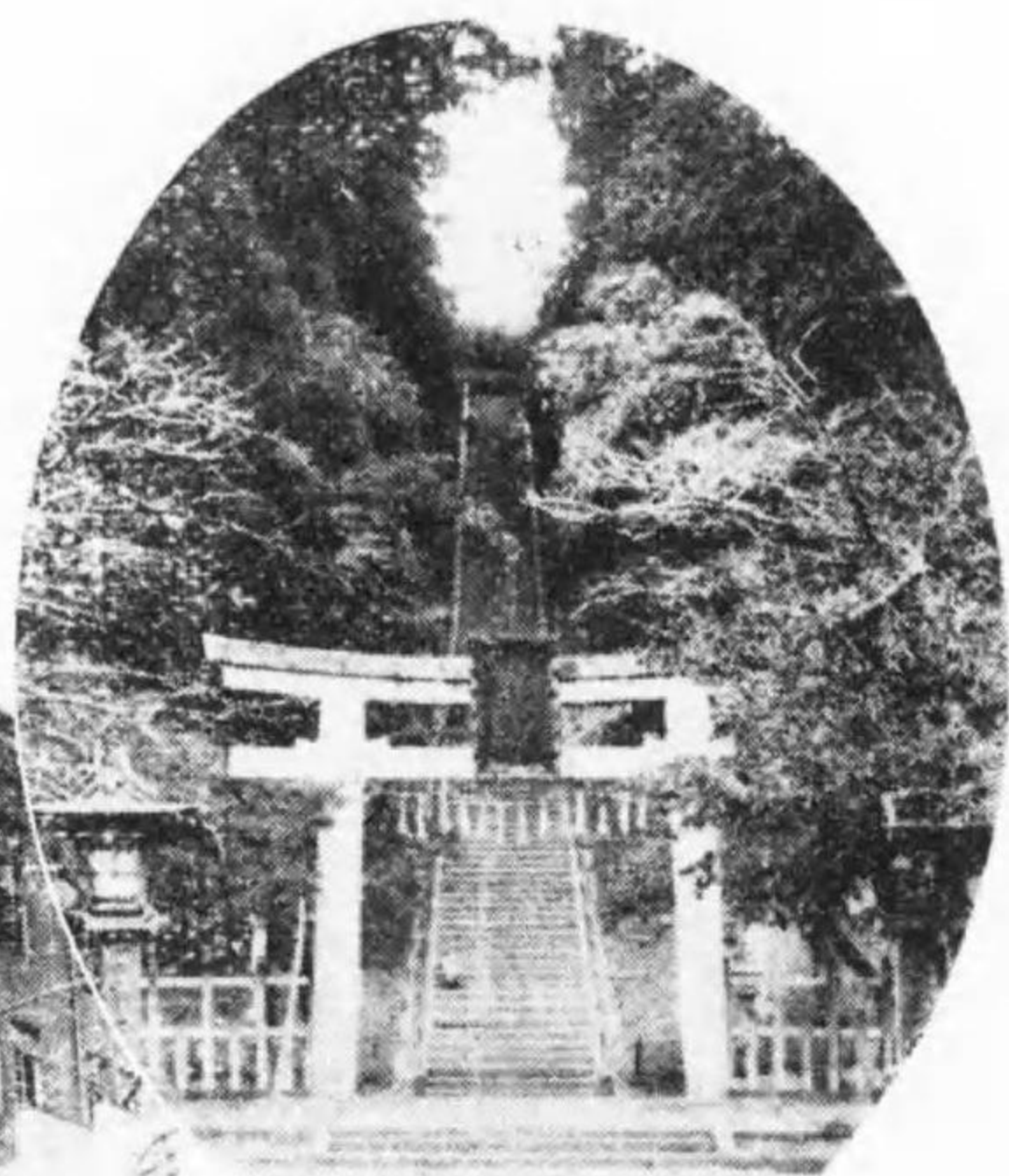
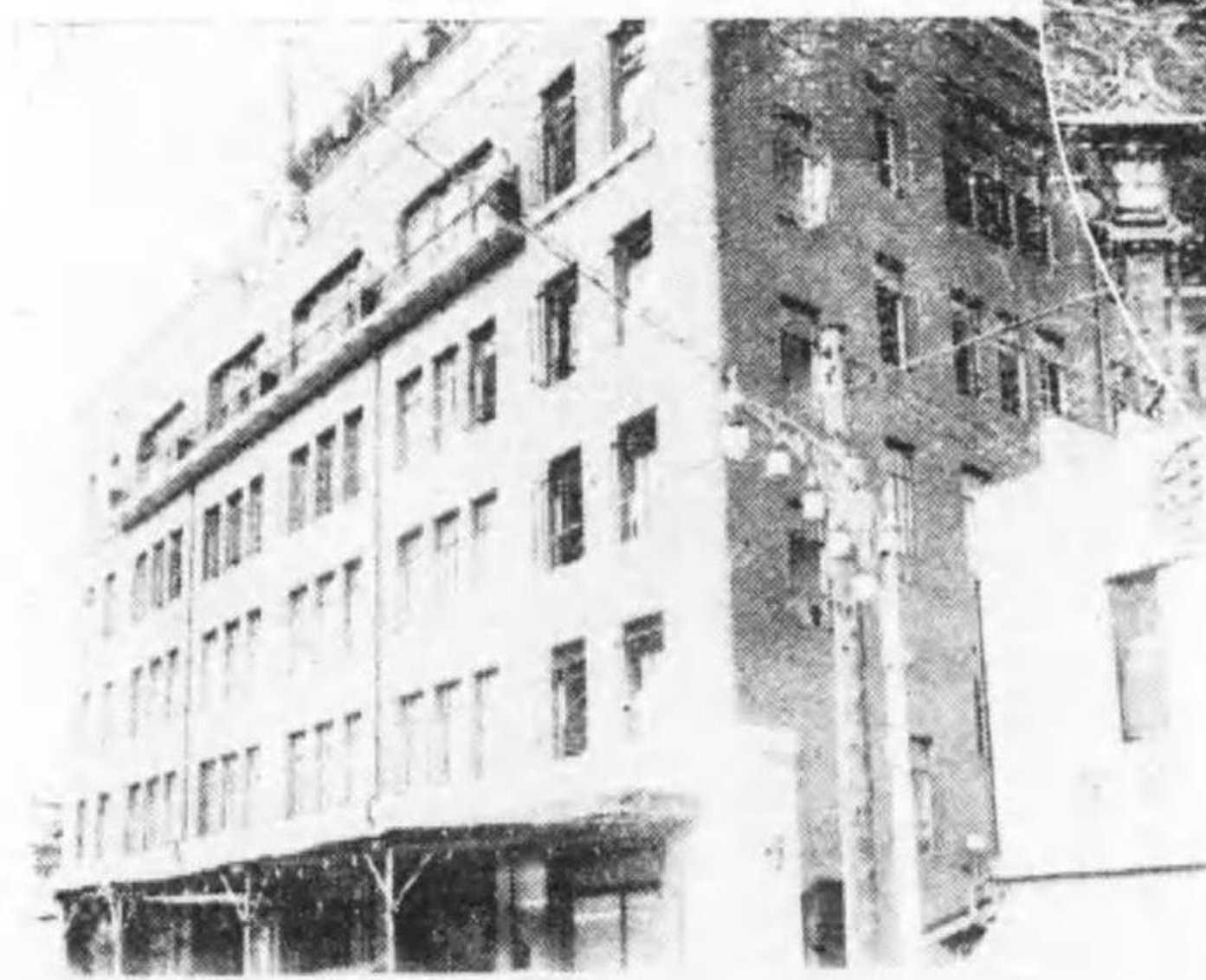
東一番丁の賑ひ



芭蕉の辻



三越支店の偉観



鹽竈神社表坂



松島五大大堂



## はしがき

『仙臺市大観』の編纂成る。

蓋し本書は藩祖伊達政宗公三百年祭に相當するの秋、一書以て記念し、本市及び其の附近に於ける最近の状況を簡單に記述して、之を廣く内外に紹介すると共に、觀光の手引たるを主とせる爲、多種の材料を蒐集して刊行せるものなり。唯だ短日時の編纂に係るを以て、或は体裁の美を缺き又は順序に遺憾なきを保し難く、内容亦不備の嫌なきにあらず。然りと雖も、何等か參考資料として裨益する所あらば本懐なり。

昭和十年四月

編者識



## ☐仙臺市大觀目次

<p>仙臺市の概観……………一</p> <p>官公衙……………四</p> <p>教育……………六</p> <p>産業……………一八</p> <p>金融機関……………一九</p> <p>商業機関……………二〇</p> <p>工業機関……………二二</p> <p>商工団体……………二六</p> <p>市場と倉庫……………二六</p> <p>保険……………二七</p> <p>交通……………三三</p> <p>醫、病院……………三六</p> <p>銘産品……………三八</p>	<p>商店街……………四〇</p> <p>市内年中行事……………四三</p> <p>民謡……………四六</p> <p>名所と舊蹟……………四九</p> <p>遊覽順序……………五五</p> <p>旅館……………五九</p> <p>花柳界……………五九</p> <p>鹽釜港……………六〇</p> <p>松島……………六四</p> <p>石巻と金華山……………六六</p> <p>仙臺市附近の温泉郷……………七〇</p> <p>附録……………七〇</p> <p>業種別著名商店、其他……………七三</p>
--	---





御買物

は

仙

臺

三

越

三越

仙臺支店

電話代表四〇五〇番

贈るに便利

受けて重寶

▼三越の商品券▲

### ◇仙臺市大觀

#### 仙臺市の概観

仙臺市は上野驛より北に約三五〇軒、急行列車にて七時間を要し、人口二十一萬餘を有する東北第一の都市である。

慶長五年十二月伊達政宗公が青葉城に築城を始め、同七年五月竣功を告げ、仙臺城又は青葉城と稱へた。當時此の地に移住するもの家臣八千戸、町民二千百戸、其他合せて總戸數壹萬八百餘戸、人口五萬二千を算し奥洲二十一郡六十二萬石、東奥の雄藩として竹に雀の仙臺様と謠はれた伊達氏十四世二百七十年の基は茲に開かれたのである。

明治四年七月維新の大詔頒發せられ、廢藩置縣の際宮城縣を置かれ、同五年區制を布かれ同十一年七月仙臺區と稱せらる。明治二十二年市制を實施せられ四月一日仙臺市と稱せらるゝに至り、戸數一萬六千八百、人口八萬六千三百五十三人を算した。明治維新に疲弊せる大藩の後を受けた仙臺市は、其後進展の一路を辿り、行政、教育、經濟に關する諸機關は相次て設置せられ、所謂北日本の中心點となるに至つた。

現在の仙臺市はあらゆる道路は舗装せられ、市街電車は第一期線を完成して第二期線も着々進行して建物等も従つて舊態を改め近代都市としての形を整ふるに至つたが、本市の最も誇りとするものは杜の



都と稱せらるゝ程、市中に多くの樹木があること、學都たるの點で教育機關は先づ完備に近いと云つても過言ではなく、小は幼稚園より大は帝國大學に至るまで、其の數は百〇五に上り朝夕の街路は之等通學生の爲に埋め去らるゝの觀を呈するのである。更に官衙の多いことも全國第二位であつて、其の概況は別章に示すが如く何れも市内の各所に配置され、行政官廳の重なるものは縣廳、市役所を初め稅務監督局、鐵道局、逓信局、控訴院、地方區裁判所及師團司令部等を網羅して居る。殊に此の機會に紹介して置かねばならないのは、現在北一番丁に新築中の簡易保險支局の設置される事にて、昨年三月起工以來鐵筋コンクリートの六階建總延六千九百六十五坪といふ巨体の外廓を有し、全局員も一千五百名の大世帯にて正に東北隨一と稱され、來春三月開局の豫定を以て目下急ピツチの建築工事を續けてゐる。産業に於ては織物、染物、木工品、漆器、竹製品等歴史あり、特色ある製品を出し逐年品質の向上を圖り産額の増加を見るに至り、麥酒、製糸紡績等の諸工業も發達し、更に最近軍事工場及人絹紡績等の大工場が續々設置せらるゝ氣運が濃厚になり、早晚之が實現の域に到達するものと期待さるゝに至り消費都市から生産都市に移らんとするの趨勢にある。

昭和三年四月接續せる長町、原町及七郷村の一部南小泉を合せ同六年四月、七北田村の一部荒卷北根を全七年十月西多賀村を併合し、今や面積五方里六十三餘、今後都市計畫事業實行の曉、東に國際港鹽釜及松島を控へ仙山鐵道の完成（昭和十二年）と相俟つて全く其の面目を一新し、將に躍進的發展を遂げんとするの趨勢にある。

## ◇仙臺市民歌

一、青葉山雲湧く所

東奥の霸權は成りて

榮光と威武の大旆

高かりき五城樓

三、三百の春秋去りて

山河の色は移らず

傳統の血潮高くも

脈搏つよ我が胸に

二、廣瀬川霧はれ行けば

北方の春はめざめて

産業と文化の都會

基成りぬ仙臺市

四、光明の時代ぞ今は

空青く望遙けし

新らしき鵬翼ならせ

高らかに朗らかに



## ◇官 公 衙

仙臺は封建時代に於て既に東北文化の中心地たると共に、政治上の重要な位置を占めたもので、山河襟帯、奥羽の樞軸なる地勢上の然らしむるところと相俟つものである。明治維新後行政諸機關の相ついで設置せられたるは勿論、最近はいよゝゝ其の数が増加し(仙臺は役所町なり)との別稱を得た程である。即ち主なるものを揚げれば、宮城縣廳、仙臺市役所、宮城縣商品陳列所、仙臺稅務監督局、仙臺稅務署、仙臺鑛山監督局、第二師團司令部、歩兵第三旅團司令部、仙臺聯隊區司令部、歩兵第四聯隊、騎兵第二聯隊、野砲第二聯隊、工兵第二大隊、輜重兵第二大隊、仙臺陸軍教導學校、仙臺憲兵隊、仙臺警察署、宮城控訴院、仙臺地方裁判所、仙臺區裁判所、宮城刑務所、遞信局、仙臺貯金支局、仙臺郵便局、仙臺鐵道局、仙臺地方專賣局、內務省仙臺土木出張所、仙臺營林署、仙臺放送局、商工省工藝指導所、仙臺商工會議所、東北帝國大學本部、第二高等學校、仙臺高等工業學校等ありて市内の各所に配置されて居る。次に其の概要を掲げる。

### 市内諸官衙

名	稱	位置	電話番号
宮城縣廳	勾當臺通		三、三〇〇
仙臺商工會議所		東二番丁	二五二

仙臺市役所	表小路		二、三〇〇	仙臺遞信局	東二番丁	四、〇〇〇
商工省工藝指導所	二十人町通		三、七六〇	仙臺貯金支局	東二番丁	一、五六三
宮城縣商品陳列所	勾當臺通		六五九	仙臺簡易保險支局	北一番丁(建築中)	
仙臺稅務監督局	北一番町		二、七〇〇	仙臺郵便局	南町	二、〇七〇
仙臺稅務署	同		二、七〇三	同鐵道船舶郵便局	東二番丁	五七六
仙臺鑛山監督局	柳町通		三五四	仙臺鐵道局	清水小路	一、四二〇
第二師團司令部	川内		一、七〇〇	仙臺運輸事務所	東五番丁	六六三
歩兵第三旅團司令部	同		一、七〇〇	仙臺保線事務所	同	一、四三〇
仙臺聯隊區司令部	同		一五一	仙臺地方專賣局	清水小路	二、九〇〇
仙臺憲兵隊	東二番丁		一四六	內務省仙臺土木出張所	北三番丁	三七六
仙臺警察署	東三番丁(錦丁)		一〇四	仙臺營林署	北六番丁	一、二四〇
宮城控訴院	片平丁		三、八〇〇	農林省仙臺米穀事務所	南町	四、二〇〇
仙臺地方裁判所	同		三、八〇〇	仙臺放送局	北一番丁	三、一〇〇
宮城刑務所	古城		一四一			



## ◇教 育

六

仙臺は森の都として知られ、亦學都としては世界的に有名である。兩者共人類文化生活に必要な價值をそれ／＼表徴するものであるが、前者は今後或程度まで切り詰めらるべき餘儀なきを持つに反し、後者は今後益々發展せしめるべき當然性と可能性とを無制限に持つてゐる。當市は學都であると言はれるだけに、其の學校の數は甚だ多い。然し教育に於て考へなければならぬのは量よりも質であり、此の質に於て遺憾の點があるなれば、何萬の教育機關と雖も殆んど其の意味をなさない。従つて仙臺市が果して眞の學都であるや否やを制定する有力なる標準は、仙臺人が一般に教育なるものに對してどの程度の理解と熱とを持つてゐるかにある。

こうした角度から仙臺人なるものを眺めた時、その性質を最もよく代表するものに、かの大槻平泉氏がある。氏は人も知る舊藩制時代の教育機關として、今も尙残る養賢堂（縣廳際）の創初者であり學頭であつたが、階級意識の支配的、決定的に優勢であつた藩政時代にあつても、この堂内に於て學規を無視し、喫煙せんとした藩の重臣に對し毅然として學規の神聖を主張して遂に之を貫徹し得た人で、之固より大槻平泉氏のまれに見る優秀なる教育能の然らしめた所ではあるが、同時に周圍の一般人の教育に對する熱心と理解と興味とが強烈なる當時の階級意識を例外的に無力ならしめた程に秀拔なるものであ

つたからである。

此の一事、よく昔時より仙臺人の血脈を流るゝ教育に對する理解と興味とを代表し得てあまりある。現代の仙臺市がかく多くの學校を有し、各々其の機能を完全に發揮し遂行しつゝある亦故きに非ずである。

次に現在仙臺市が持つ學校の種類と其の概要を列記することにする。

### 東 北 帝 國 大 學

東北帝國大學は明治四十年六月二十二日設置せられたのであるが、是より先、古河虎之助氏より金四拾萬六千二百六拾二圓、宮城縣より金拾五萬圓、北海道より金拾萬圓を寄附せられ、是に依つて仙臺の理科大學、札幌の農科大學の二分科大學を以て其の創立を見るに至つたのである。

明治四十四年三月初代總長として澤柳政太郎氏總長に任ぜられ、明治四十五年三月、醫學、工學の二専門部を附屬、大正二年三月専門部に附屬病院を設置し、同五月總長澤柳政太郎氏京都帝國大學に轉任し廣島高等師範學校長北條時敬氏本學總長に任ぜられたのである。大正四年七月醫科大學を開設して醫學科を置く。大正六年八月總長北條時敬氏學習院長に轉任し、理科大學教授小川正孝氏、總長事務取扱を命ぜらる。大正六年十月福原録二郎氏總長に任ぜられ、小川正孝氏總長事務取扱を免ぜらる。大正七年三月農科大學本學より分離し、同四月醫學専門部を廢止す。大正八年二月新大學令の公布により學部



に關する規定を定め、各學部に於ける講座の種類及其の數を定む。大正八年五月附屬鐵鋼研究所を設置し、全五月工學部を設置、大正八年六月小川正孝氏總長兼教授に任ぜられ、福原鏝二郎氏依願本官を免ぜらる。大正十年三月附屬工學專門部本學より分離す。大正十一年八月法文學部を設置す。同八月鐵鋼研究所を金屬材料研究所に改む。大正十三年七月理學部に附屬臨海實驗所を置く。昭和三年六月總長小川正孝氏總長依願免官、教授井上仁吉氏總長に任ぜらる。同六年六月總長井上仁吉氏依願本官を免ぜられ、同月現在の六代目總長本多光太郎氏總長兼教授に任ぜらる。同八年五月總長兼教授の兼官を免ぜられたのである。以上の過程を経、其の間幾度か講座の改正等もあつて現在に至つてゐる。東北帝大の有する現在の學部は理學部、工學部、法文學部、醫學部の四學部の外、金屬材料研究所ありて鋼鐵其の他の金屬及合金に關する學理及應用の研究をなし、冶金部、製鋼部、鑄物部、砂鐵部、輕合金部の五部に分れてゐる。

以上は既設機關に就いてであるが、尙東北帝大には、さきに農學部新設の計畫あり、小川總長時代からの懸案で當時より理學部教授畑井新喜司氏等が準備を進めつゝありしが、機漸く熟し、既に數萬圓の寄附を申込んで來てゐる人も數人あり、本多總長も目下各關係方面に運動中にて、之が實現は單に東北地方農村の爲に非常なる貢獻をなすの外、地元仙臺市も宮城縣としても直接關接に非常なる好影響を受くるもので、場所も原町附近と決定されて居り漸く其の實現を期待し得るに至つた。

## 高等專門學校

第二高等學校は明治二十七年六月高等學校令の發布により第二高等中學校を改稱したもので、其の第二高等中學校なるものは、更に遡つて明治十九年四月中學校令の發布と同時に創立せられたもので其の由來するところ甚だ遠く、當初は現在片平丁東北大學敷地内にあつたものであるが、大正十四年二月現在の北六番丁の新築校舍成つて茲に移轉したものである。従つて現在に至るまでには幾多記念すべき歴史を有するものであつて、現在の東北帝大醫學部の如きも其の起原は第二高等學校に並設された高等學校醫學部であつて、其後は二高より分離昇格せしめられたものである。同校は文科と理科との二科に分れ現在文科生二百〇一名、理科五百二十九名あり、創立以來七千八百四十三名(昭和九年度現在)の卒業者を出してゐる。

## 仙臺高等工業學校

本校は明治三十九年三月の創立なるも、明治四十五年三月東北帝國大學官制の改正によつて東北大學に併合せられ(澤柳政太郎總長時代)同大學の工學部と改稱されたもので、大正十年四月一日再び東北帝大の所屬を離れ獨立して仙臺高等工業學校となり、同時に前校長新保氏が同校長に任ぜられたものである。東北帝國大學、第二高等學校、高等工業學校がかくの如く互ひに發展して來たことは甚だ興味あ



る現象である。昭和五年四月建築學科を新設され、其間實驗室、教室、事務室等の竣工成つて現在に至つてゐるが、昭和九年七月校長新保徳壽氏依願免官によつて、同校教授鶴見一之氏が校長に任ぜられたわけである。尙同校の現在所有するところの科は電氣科、機械科、土木科、建築科の四科に別れ生徒數は各科を通じて五百二十六人ある。

### 東北學院專門部

東北學院專門部は明治十九年六月の創立にて、基督教主義による學校である。高等學部、神學部、中學部の三階程に分れてゐるが、必ずしも之を強制するものではなく、高等學部は文科、師範科、商科の三科に分れ其の卒業生は各方面の實社會に活動してゐる。

### 女子専門學校

女子専門學校は大正十五年三月の創立になり、文科の英文科、國文科と家政科の家事科、裁縫科の四科の専攻に分れ、生徒數三百五十餘名、文部省の國家試験にも第一流の成績を收め、卒業生の殆んど全部が中等教員の檢定にパスしてゐるなど、われ／＼仙臺人としては聞くさへ愉快な話である。昨年の秋土地環境に恵まれた理想的の高臺（向山）に新築落成して之に移つた。とまれ輓近我國女子教育漸く勃興し、女權運動のやかましい昨今其の前途は今や各方面から囑望さるゝに至つた。

### 中等學校

中等學校以上占めて三十六校、所謂最高學府の大學から高等學校、専門學校、官私立、ミツシヨンと入亂れて學都仙臺を形成してゐるが、其の中で中等學校が最も多く先づ縣立に師範學校、女子師範學校、縣立仙臺第一中學校、同第二中學校、縣立第一高等女學校、同第二高等女學校、同第三高等女學校、實業學校には縣立工業學校、農學校、縣立盲啞學校等がある。市立には商業及び工業の兩校の外夜間中學校あり、私立には東北中學校を初め育英中學、梅壇中學、東北學院中學部等あり、私立女子校には東北女子職業學校、朴澤松操女學校、常盤木學園高等女學校、尙綱女學校、宮城女學校、吉田女學校等の外合せて八校あり、此の内重なる學校の概要を述べて見る。

仙臺市大町四丁目

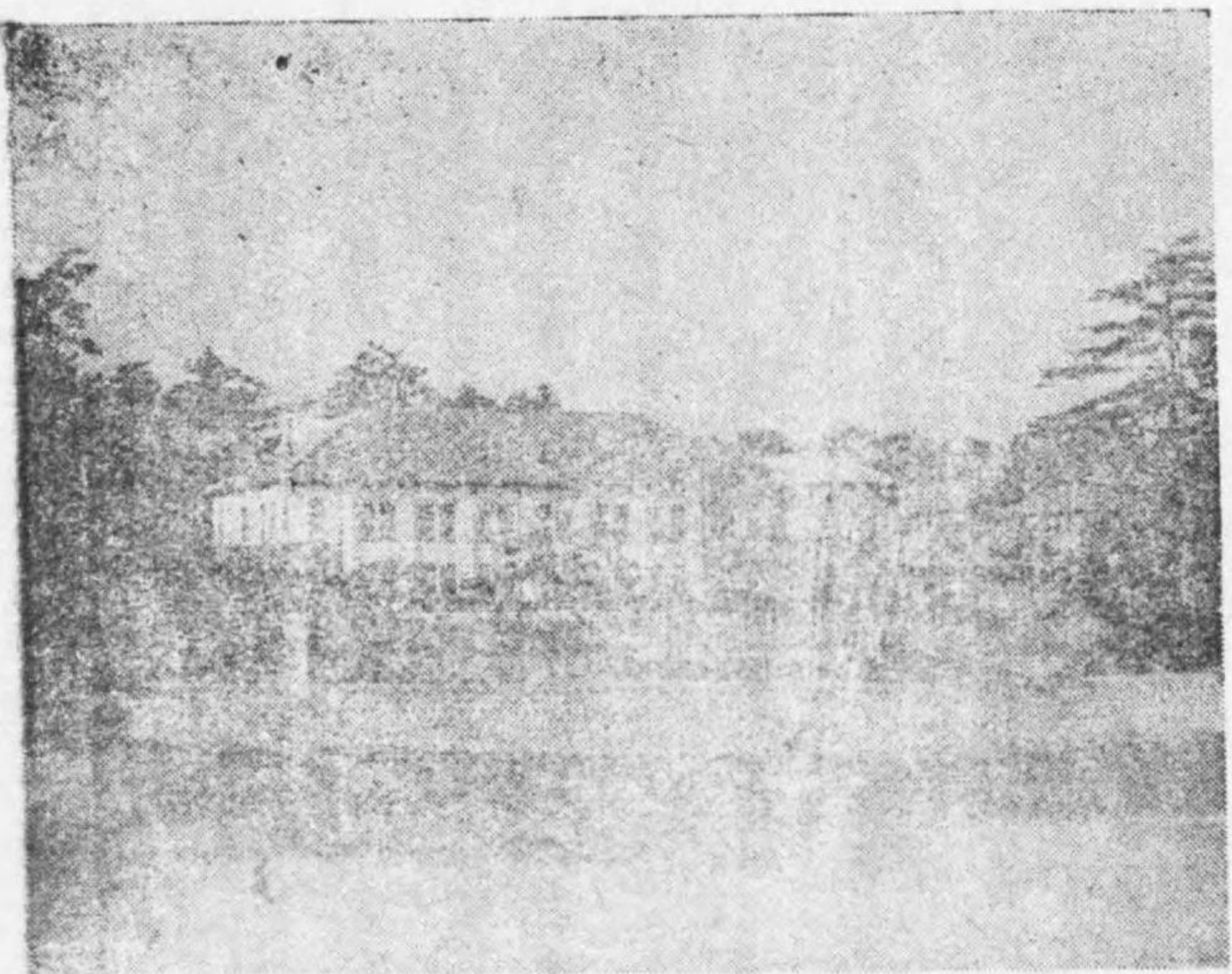
文房具の ———— 文房堂

電話 一二三番



南光學院  
〔東北中學校  
東北商業學校〕

市の東北端小田原南光澤（通稱小松島）に在り、明治二十七年創立以來三千名の卒業生を出し、現在



生徒東北中學校三百七十名、商業學校百八十名に上つてゐるが、中等學校に於ける公私立の封建的偏見は根本から是正せられんとする今日、その面目は正に躍如たるものがある。本校は開校以來既に四十三年、其間幾多の人材を産んでゐることは人もよく知るところで、官吏、軍人、醫者等何れも社會有爲の位地にあつて實社會に活動してゐるものが尠くない。

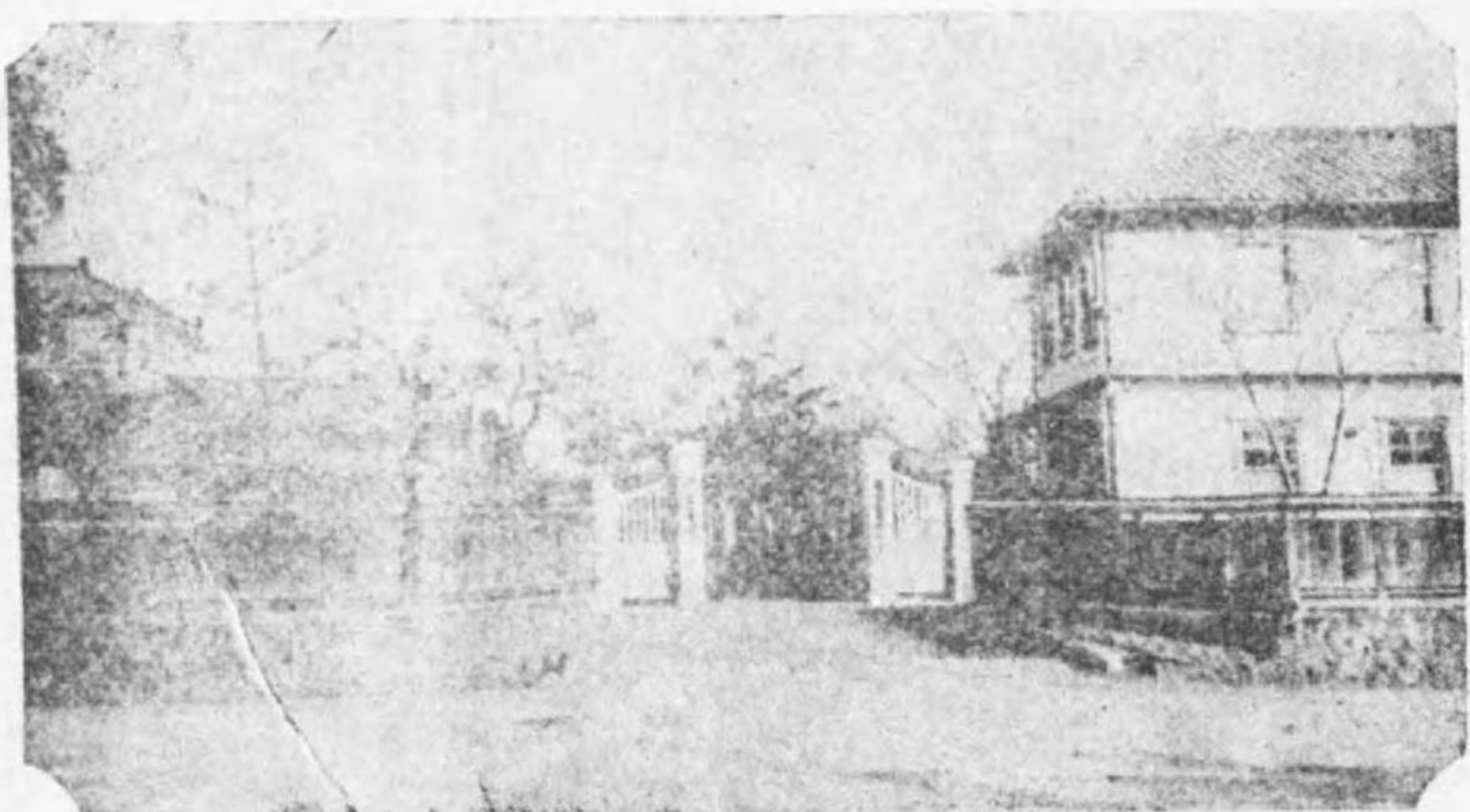
何れの學校に於ても校長の人格は直接生徒の教育に反映し、それが校風となる事は云ふ迄もないが、同校々長五十嵐豊吉氏は性質直にして飽迄責任感強く、過去四十有餘年の間教育事業に身を捧げ、その發展と經營に盡瘁しつゝ、現在に至つてゐるが、氏の教育界に於ける存在は全く尊きものである。

東北女子職業學校

地方の縣立女學校あたりが昨今の不況に崇られて志望者が激減し、職員連が草鞋ばきで新入生を探し歩いても定員を満たす迄は毎年相當な苦勞を繰り返してゐるが、之等を尻目に悠々と五百餘名の募集人員を超満員にしてゐるのに私立の東北女子職業學校がある。勤勞勞作教育が盛んに必要を叫ばれてゐる時代の波に乗つて今や名實共に裁縫學校中の王座を占め、斯界に一異彩を放つてゐるが、かうした同校の今日を築き上げた裏に校長三島よし氏過去三十餘年の辛苦も決して見逃すことは出来ない。

本校は明治三十六年十月仙臺市

に活動してゐるもの亦少くない。



× 東三番丁に其の創立を見、大正二年九月現在の地清水小路の建築成つて之に移轉せるものにして、爾來卒業生を出すことに實に六千六百有餘名、現在生徒五百餘名あり、目的としては女子の淑徳を涵養し主として裁縫、手藝、家事、商業及其他實際社會に活用し得る技藝學術を教授し兼て裁縫手藝家事科教員の養成にある。生徒卒業後の就職成績も頗る良好にして、無試験檢定による裁縫科中等教員、裁縫専科正教員の資格を得て實社會



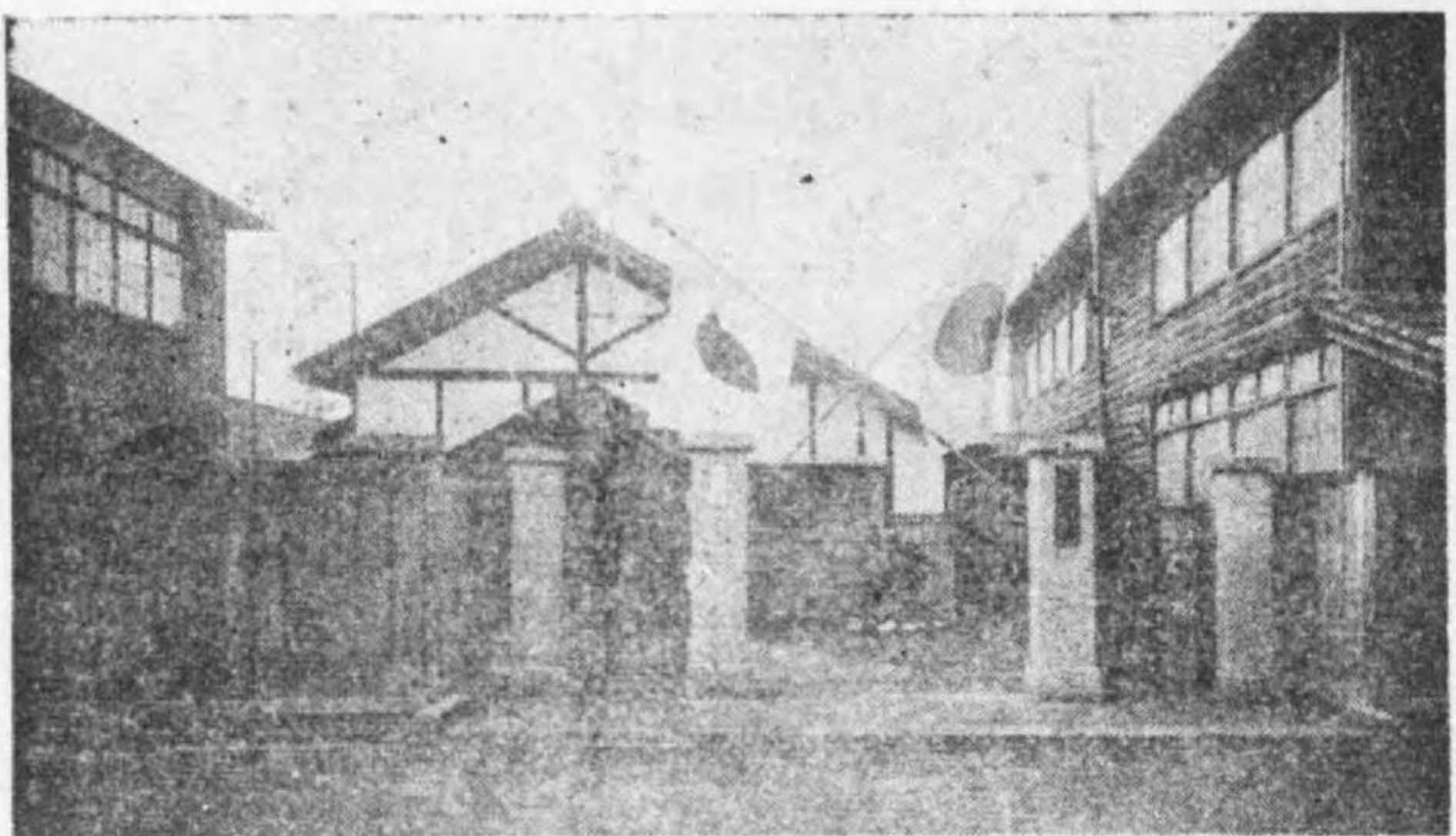
(本校の位置) 停車場より南へ約四丁位なれば通學の便最もよく、校庭廣くして周圍は綠樹に包まれ頗る閑靜な所で生徒の保健上に理想的である。

### 尙網女學校

杜の都の西北端、廣瀬河半の高臺に清楚な鐵筋コンクリートの三階層を見る。これこそ國際親善を目ざして世界に躍進する、美はしい日本女性を作り上げるミツシヨンにて有名な尙網女學校である。本校は明治二十五年八月、ミード、ブゼル兩先生によつて新坂通りに創立され、同三十二年一月現在の中島町へ校舎新築して之に移つたのであるが、其後進展の一路を辿り大正四年四月、家政科、研究科の増設を見て現在では生徒二百三十人、教師三十人を有し、前校長川口卯吉氏は最初の日本人校長として赴任以來十一ヶ年の間教育に盡瘁せしも昭和十年三月引退し、現校長は東京第一實業女學校長であつた安藤謙助氏である。モットーとしては學校の性質上信仰による人格の向上と博愛と奉仕の觀念を植付ける事等であるが、本校の最も誇りとするものは自然の景觀美に恵まれてゐることで、青葉城趾を前に廣濶な視野を壇にし、廣瀬の清流を眼下に見下するあたり全く他にその比を見ざる所にして、感激し易い青春期の女子教育の位置としては最も理想的な所である。

仙臺市大町  
婦人小兒服 洋裝店  
**父母商會**  
電話一二五二番

### 朴澤松操女學校



本校は明治十二年生物學界の權威朴澤三二博士の祖父に當る朴澤三代治氏の創立にかゝり、松操塾と稱されてゐた。其の當時は男女共學制なりしもい、つしか男子禁制となり爾來賢實なる校風を作りてより發展の一路を辿り大正十五年三月は本科師範科の増設を見て朴澤松操學校と改稱し、昭和七年三月更に高等師範科を増設して校名を朴澤松操女學校と改めたのである。現在では年々四百餘名の入學者と卒業生とを送迎し、同窓生も約一萬名に達し裁縫教育界に一異彩を放つてゐるが、本校の最も光榮とし誇りとする所は明治二十七年五月初代校長朴澤三代治氏が裁縫教育功勞者として勅定の藍綬褒賞を授與されたことである。過去幾十年を教育事業に捧げ、今尙七十八歳の高齡を以て自ら婦徳の範を示される現校長朴澤ひろ子先生の努力も誠に尊いものがある。

#### 本校の教育方針

婦人として立派な人格者を養成する

貞操第一、質素、勤勉



## 宮城女學校

宮城女學校は基督教主義による學校にして押川方義、吉田龜太郎兩氏及傳道局委員の方々の盡力により明治十九年九月東二番丁の田邊繁久氏住宅の一部を借受けてこゝに創立したのである。

當時は生徒數僅かに六名位なりしも次年には六十名を算するに至り、漸次其の増加を見て明治二十年四月より現在の敷地に講堂、教室、住宅の建築にかゝり同二十二年四月工事の竣工を告げ、之に移つたのであるが、明治三十五年三月八日の火災は同校舎を全部烏有に歸せしめ、其の發展上甚大なる影響を與へたのであつた。其後更に校舎の新築にかゝり大正七年第一第二の兩校舎及住宅の竣工成り、亦數次に亘り校舎の擴張、各科の増設を見て現在に至つてゐるが、爾來卒業者を出すこと實に千四百人、生徒三百七十人を有し、本校の獨特なる音樂と英語に於ては全く優秀なる成績をあげ各方面から羨望の的となつてゐるが、國際關係の好轉されつゝある今日其の前途は漸く囑望さるゝに至つた。

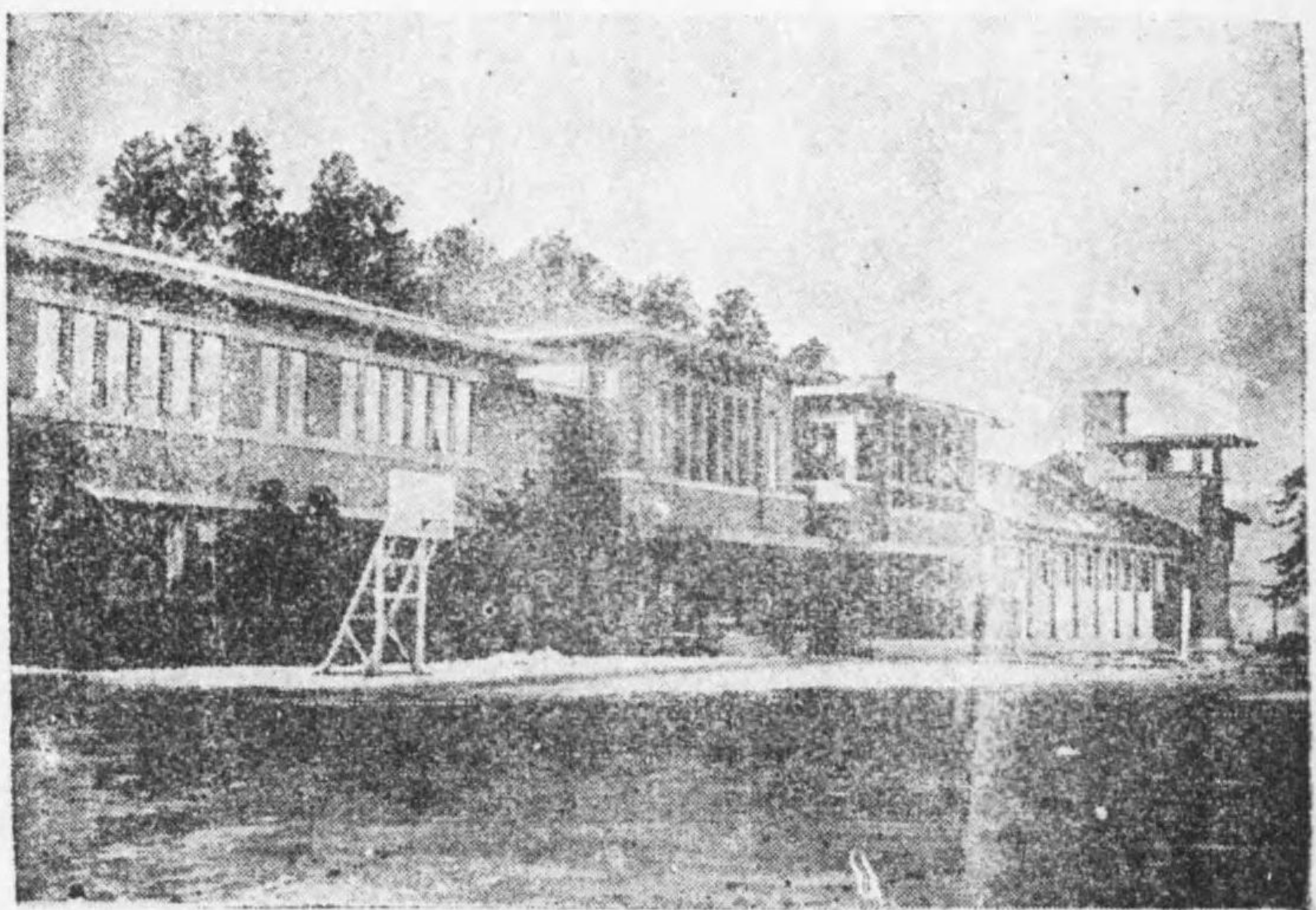
位置は市の中央部東三番丁に敷地七千坪を有し、赤煉瓦の堂々たる校舎の周圍は綠樹鬱蒼として都會地の學園に最もふさわしい所と云はれてゐる。

校長シーデー・クリーテ氏は人格高潔、溫厚にして慈愛厚く身を以て婦徳の範をたれ、教へるもの教へられるもの一体となつて美はしい學園を形造つてゐる。本校は高等女學部と專攻部とに分れ、專攻部は聖書科、英文科、音樂科、家政科の四科に分れてゐる。

## 常盤木學園高等女學校

近來女子教育の普及は目ざましいものがあり、それと共に女性の社會的地位も著しく向上してゐることは事實であるが、女學校教育があまりに社會の實際とかけ離れてゐる爲、卒業後實際生活に役立つことの少いことは絶えず論議されてゐることである。かうした所謂型にはまつた教育と反して眞に家庭生活者として最も實力ある良き女性を教育する目的の下に設立されたのに、常盤木學園高等女學校がある。本園は昭和三年二月松良善瀨氏の設立にかゝり、同四月より開校せるものにして、校舎はモダンなライト式建築の二階建、位置は西公園と隣接して前に廣瀬の清流を見下し向ひに青葉城を眺め、遠くは奥羽の連峰を望む市中の高臺なる所にあり、閑靜にして明朗な學園である。

現校長は醫學博士佐藤幸三氏にして、生徒の健康には細心の注意を拂つてゐるあたり、全く新時代に適應した學校と言ふべきであらう。





### ◇産業

仙臺市は學都としては世界的に有名なるにも拘わらず、産業方面について業者は之等諸機關と密接なる連絡と提携を有するもの少く、生産工業に何等見るべきものなく誠に遺憾とされてゐたが、近來市民の産業に對する關心漸く高潮し、消費都市より生産都市への轉換を最も活發に實行しつゝあるに至つた。商工業の狀勢は交通運輸機關の發達に比例して向上の一路を辿り、近年著しく面目を改めて來た。市内商店街の整備は其の商業能力の如何を物語り、各種工場増設の機運は其の工場進展の實況を提示するものである。此の時に際し鹽釜の開港成り、仙山鐵道貫通の近きにあるは、兩羽地方との距離を短縮して經濟的提携の實現を如實に示すもので本市産業界の前途益々躍進の光明である。金融機關においては各銀行にて夫々其の機能を發揮せられ、縣下の重要産業なる、米作、水産物、林産業、其他の諸工業を有利に展開せしめ、更に市街地信用組合の發達は庶民金融機關として健全なる歩みを見せてゐる。亦鹽釜港は仙臺市の玄關口として此の大なる背景を利用するのが當然の事であり、仙臺市もまた海運の利器を有する鹽釜港を抱擁して始めて大都市たるの實を擧げ得るもので其の關係は全く密接である。されば仙臺の實業家は相提携して連絡を保ち、其の事業能率を高める事になつたのも必然の理と云ふべきである。

### ◇金融機關

#### 銀行

市内金融機關は近年益々整備して、縣下の財界中心たるは固より東北六縣下に於ける樞軸をなして業務いよく進展を告げてゐる。即ち昭和二年度末に於ては本支店を合せて十五行を有してゐたが、其後各金融業者は時代の趨勢と大藏省の奨励により地方金融界の爲に一切のわだかまりを捨て、合併實現し其の結果他府縣の如き金融界の不詳事を未然に防止することを得て、今や全く堅實なる基礎を確立するに至つた。現在では普通銀行二、貯蓄銀行一、農工銀行一、計四行となつた。又市外に本店を有し市内に支店を有するものは普通銀行二、貯蓄銀行二にして、何れも地方金融界の爲に健實なる揮能を發揮し取引者の信用を高め産業經濟に貢献するところ尠くない。尙市内同業者間には市内組合銀行あり、縣内を通じては縣下銀行同盟會があつてそれ／＼斯界の發達と親睦とを期してゐる。次に銀行名及業務の要覽を掲ぐ。

#### 銀行一覽

(昭和九年度末)

名稱	資本金	拂込資本金	所	支店及出張所數
株式會社七十七銀行	九、〇〇〇、〇〇〇圓	四四〇六、三七五圓	仙臺市大町	八四



- 同 宮城銀行 一、〇〇〇、〇〇〇圓 二九五、〇〇〇圓 同 元寺小路 六
  - 同 東北貯蓄銀行 一、〇〇〇、〇〇〇圓 七〇〇、〇〇〇圓 同 大町 四
  - 同 宮城縣農工銀行 五、〇〇〇、〇〇〇圓 四、〇〇〇、〇〇〇圓 同 東二番丁 一
- 外に市外に本店を有し、市内に支店を設置するもの
- 安田銀行 仙臺支店 (仙臺市大町)
  - 常磐銀行 仙臺支店 (仙臺市元寺小路)
  - 安田貯蓄銀行 仙臺支店 (仙臺市大町)
  - 不動貯金銀行 仙臺支店 (仙臺市東二番丁)

手形交換所 仙臺手形交換所は仙臺商工會議所内に設置され、日々の交換事務を取扱ひ、全國手形交換所組合に加盟してゐる。

信託業 仙臺信託株式會社は資本金三百萬圓にして齋藤善右工門氏の經營に係り、昭和九年末現在信託勘定壹千五百萬圓に達し信託利用者の好評を得てゐる。

無盡業 東北無盡株式會社は當市實業家廣部常造氏の經營に係り、資本金拾萬圓にして全國無盡會社中でも屈指の大會社である。近年、財界不況に祟れて一般無盡業者の味收無盡掛金の整理に困惑してゐるの時、當會社の内容は益々充実し、出張所、代理店合せて十七を數へ庶民金融機關とし

て歓迎せられつゝよく其の使命を果してゐる。

市街地信用組合 昭和七年迄は仙臺庶民金庫一庫に過ぎざりしも、同年十二月仙臺市民金庫の實現によつて二庫となつたわけである。最近双方共益々加入者の増加を見るに至り、庶民金融機關としての機能を發揮してゐるが、出資總額五拾萬圓に達するのも遠き將來ではあるまい。

### ◇商業機關

#### 仙臺商工會議所

仙臺商工會議所は明治二十四年六月創立したもので、縣市の主務課に於ける各般の施設を外にして常に商工業の指導獎勵と其の進展に努力すると同時に商工業者の代表機關である。議員定員四十名を有し(現在三十九名)會頭一名、副會頭二名、理事一名、常議員十二名の役員により法定の機能を發揮するに努めつゝあるが、其の議員の氏名は左の通りである。

- |     |      |       |       |       |
|-----|------|-------|-------|-------|
| 會頭  | 中村梅三 | 若生憲雄  | 本田儀三郎 | 横山常吉  |
| 副會頭 | 板垣金造 | 草野徳治  | 三浦善作  | 山田正一  |
| 同   | 三原庄太 | 西内長治  | 佐藤匡   | 板垣金治郎 |
| 同   | 畑谷兵助 | 清野間太郎 | 佐藤正助  | 仁田寅藏  |



平磯 正三	佐藤 十兵衛	大塚 民三郎	奈良 龍藏
龜田 兵治	小野寺 昌治	小林 軍太郎	安岡 盛治
山本 晃	高橋 融	佐藤 恒四郎	武田 金造
廣部 常造	木村 久兵衛	伊藤 東之助	齋川 久吉
小西 利兵衛	芳賀 亮三	本田 三代之助	長島 晴造
高木 清兵衛	菅原 甚左衛門	佐藤 益治	

### 宮城縣商品陳列所

本所は元物産陳列所として明治三十四年の創立にかゝり、大正十年名稱を改め同十三年本館を改築し現任所長は地方技師梁谷了祐氏である。本館には縣内生産品及内外の参考品を陳列し、新製品の試賣及び物産の委託販賣を取扱ひ、専ら製品の改良、物産の紹介、販路の斡旋並に商取引に關する調査、参考案應需、特許登録の出願手續等を掌り、當所内には宮城縣出品協會、宮城縣輸出協會、同工業界等の品の蒐集、意匠圖案の設置があつて諸種の展覽會、共進會の参加に關し、各種の産業機關と連絡提携して産業開發の爲に貢献しつゝあり。

## ◆工業機關

市内の工業は藩祖政宗公が開府と同時に、規模宏大なる青葉城の造營、莊嚴華麗なる神社佛閣を初めとして漸次仙臺工業の基礎を築くに至つたもので、織物、漆器、指物、毛筆、染物、味噌、醬油、鑄物製瓦、陶器、石細工等を算し、何れも傳統的の特質を稱揚されたものであるが、近年工業教育の普及向上に伴ひ且つは電氣事業の勃興に比例し著しく進展して來つたので、生産品の種類を多からしむると共に其の産額も亦著しく増加するに至つた。されば生産工業と認むべきものに於ても近年著しく其の數を増すに至り、金屬材料研究所、縣立工業試驗場、煙草專賣局工場を初め、日電超短波工業所、製糸工場各種機業場、紡績工場、麥酒並に清酒類製造場、味噌醬油釀造場、電氣工場、印刷工場、硝子工場等殆んど枚擧に遑ない有様である。

### 宮城縣工業試驗場

本場は大正十三年二月設立し、主として試験研究或は委託作業に、或は傳習生、研究生の養成に當業者の利用と相俟つて其の機能を發揮してゐる。

### 商工省工藝指導所

昭和三年三月榴ヶ岡公園の東方元幼年學校跡に設立され本邦唯一の工藝指導機關にして、初代所長は商工技師國井喜太郎氏である。本所は本邦工藝は古來獨特の妙味と幾多の長所を有するに拘はらず、近



時産業的に不振の状態に陥り、就中海外市場に於て漸次其の聲價を失墜せる現状に鑑み、政府に於て之が改善振興の一策として、工藝品に關する科學的試驗研究並に當業者の指導の必要なるを認め設立せるものにして設立以來多大の効果を擧げてゐる。

### サビナイ刃物

鐵鋼界に世界的權威者として有名な、東北帝國大學附屬金屬材料研究所長本多光太郎博士研究の成果である。市内米ヶ袋に工場を設け、庖丁、木工用鉋等本貞印の各種刃物が製作されてゐるが、斯界は勿論一般家庭にも評判がよい。

### ニクローム線

合金金屬研究者として學界に著名な東北帝國大學教授村上武次郎博士の發明に係るもので、電熱器に使用する日本唯一の國産品である。市内小田原に工場を設け盛んに製造されてゐるが、昭和四年十二月海軍の指定工場となつた。

### 防 彈 衣

本田博士指導にかゝる金屬製品は更にK<sub>15</sub>鋼應用の諸工藝品、防彈チョツキ等の外に他に類例を見ざ

る誇るべき特産を生むに至つたが、就中防彈チョツキ、防彈衣は滿洲事變以來各方面に利用せられ、現在では警察界方面でも盛んにこれを實用化されるに至つた。

### 東北工藝製作所

國立工藝指導所及東北帝國大學金屬材料研究所の指導後授の下に、當市少壯實業家有志の設立に係り新趣なる製作品を廉價を以て商品化する施設にして、將來大いに其の發展を期待されてゐる。

### 日電電波工業所

東北帝國大學工學部宇田新太郎博士の發明による超短波電話を製作する所にして、當市の實業家齋川久吉氏の經營にかゝり、昭和九年三月小田原清水沼通りに其の設立を見る。從來無線工學に關する進歩發展は日醒しいものありと雖も、超短波研究の完成は他に其の類例がなく、本邦に於ても唯一のものとして既に遞信、鐵道、朝鮮總督府、樺太廳其の他の方面にて使用され非常な成果を收め、其の性質上一般にも實用化されつゝあり、當市は東北帝國大學工學部、金屬材料研究所等の研究機關がある關係上種々の發明品を出されてゐるに拘はらず、地元仙臺には其の生産工業上何等見るべきものなく非常に遺憾とされてゐた今日、同所の實現は當市産業開發と工業の進展上多大なる貢獻なりと言はれ、其の將來は益々囑望されるに至つた。



## ◇商工団体

重要物産同業組合、商業組合、工業組合、準則組合、其他各種の組合を合せて八十餘を算するが、之等の各組合は何れも一致協力して各其の組合の發展、店員獎勵等に盡瘁しつゝあり、一方同業組合、準副組合の如き漸次商業組合に準據したる組合に變更する機運に向ひつゝあり。

### 市場と倉庫

仙臺市内に於ける市場としては、河原町に青物市場があり、長町青物市場と相對立して日々常用の新鮮なる蔬菜を市民に供給してゐるの外、他方面との移出入關係を有して業況逐年隆昌に趣き、移出先の聲價も高まりつゝあるが、周圍の町村が天下に有名な仙臺白菜の産地である關係から今後の發展も大いに期待されてゐる。尙河原町青物市場に隣接して仙臺果物市場あり、昭和五年十月の開業なるも相當の盛況を呈してゐる。

仙臺魚市場は仙臺開府以來三百年の歴史を有する市場で、縣下各漁場の漁獲物は勿論各地方産の魚貝類を毎朝取引する唯一の市場であつて、潑刺たる元氣は江戸情緒の魚河岸そのまゝであり、然も業蹟は年々向上して今や模範的魚市場の稱を得るに至つた。

倉庫としては株式會社宮城倉庫と仙臺合同運送株式會社倉庫とあり、宮城倉庫は日本銀行の指定倉庫にして資本金五十萬圓を有し、合同運送會社倉庫は資本金六十萬圓を以て組織したもので、合資會社白石倉庫を買収して益々堅實な發展を示してゐる。以上は既設倉庫であるが、此の外農林省仙臺米穀倉庫が目下市内に建築準備中である。

## ◇保險

### 生命保險

近來我國生命保險事業は逐年隆盛を極め、世界的に見ても米英、カナダに次ぐ一大保險國である。之は生命保險が我國の誇るべき家族制度の傳統に適應せること、當業者の躍進的活動とによつて保險思想の普及に努力せる結果に外ならない。他方また生命保險に對する一般の認識も深まり、各階級を通じて其の必要性を痛感するに至つた。

市内に於ける生命保險界は近年益々隆昌を告げ、全國有數の保險會社は何れも東北六縣下を統轄すべき支店若しくは支部を設置し、其の業績も逐年向上しつゝあるがため、仙臺市を以て保險の都と稱するも亦一理なきにあらずである。即ち昭和五年頃迄は生保支店、支部（社）合せて三十七を數へてゐたが、其の後本社の都合上合併するもの又は事業縮少の爲廢止するもの續出して現在では生命二十六、微



兵四を有する現状である。尙市内同業者間には生命保険協會があつてそれ々々斯界の連絡發達と親睦を期してゐる。

次に各會社の名稱と所在を掲ぐることにする。(いろは順)

名稱	所在	電話
日本生命保險株式會社仙臺支店	東一番丁	一三九
日清生命保險株式會社仙臺支店	南町	三六二
日本共立生命保險株式會社東北支店	南町	七八八
日華生命保險株式會社仙臺支店	國分町	六七五
東洋生命保險株式會社仙臺支店	國分町	一〇〇四
常磐生命保險株式會社仙臺支店	國分町	一五五三
千代田生命保險相互會社仙臺支店	大町	二一八
片倉生命保險株式會社仙臺支店	南町通り	一五九二
横濱生命保險株式會社仙臺支店	南町	九四五
大同生命保險株式會社仙臺支店	南町	六二一
大陽生命保險株式會社仙臺支店	南町	四七四
大平生命保險株式會社仙臺支店	國分町	六八九

大正生命保險株式會社仙臺支店	大町	七八六
第一生命保險相互會社仙臺支店	國分町	二三七九
安田生命保險株式會社仙臺支店	大町	四四五
富士生命保險株式會社仙臺支店	多門通り	四三三
福德生命保險株式會社仙臺支店	茂市ヶ坂	二九八
福壽生命保險株式會社東北支店	東二番丁	三二六六
帝國生命保險株式會社仙臺支店	大町	三三一
愛國生命保險株式會社東北支店	國分町	七二九
野村生命保險株式會社仙臺支店	南町	八三四
明治生命保險株式會社仙臺支店	大町	四〇二
三井生命保險株式會社仙臺支店	東二番丁	二九六七
仁壽生命保險株式會社仙臺支店	南町	三五四
昭和生命保險相互會社仙臺支店	南町	二一五
住友生命保險株式會社仙臺支店	南町	二三二一
日本徴兵保險株式會社仙臺支店	名掛町	三九九

(以上生命保險)



第一徵兵保險株式會社仙臺支店  
 富國徵兵保險株式會社東北支部  
 國華徵兵保險株式會社仙臺支部

南町 一三三一  
 國分町 八三九  
 茂市ヶ坂 四八九

(以上四社徵兵保險會社)

火災保險

我國に於ける火災保險事業は、生命保險、海上保險等に比すれば遙かに遅れ、明治二十年七月東京火災保險會社の創立を以て始めとする。東北地方は關東關西に比し、交通其の他の不便から一般に立遅れ東京火災が明治三十年に仙臺市に東北出張所を設置したのが皮切りで、其後横濱火災が明治三十三年頃次いで明治三十九年に至り日本火災、大阪海上火災、共同火災の三社が夫々出張所を設置し、其後漸次各社の支店出張所が設けられたわけである。

大日本聯合火災保險協會は大正六年組織されたものにして同時に仙臺地方會が出来、保險料を統一した。當時の會員會社は僅かに十四五社に過ぎなかつたが、大正十二年關東大震災火災後各社の東北出進は著しく増加し、現在では協定會社三十二社、非協定會社二社の外に小口動産四社の多數に上り、火災保險を主とし海上運送傷害信用等を兼ねてゐる。

各社の東北六縣下より擧ぐる収入保險料は約四百五十萬圓と稱せられ、其の内仙臺市について見れば

其の一割に相當する數字を計上してゐる。今各社の名稱所在及電話を述べて見る。(いろは順)

名 稱	所 在	電 話
日本火災保險株式會社仙臺支店	國分町	五〇
日本海上保險株式會社仙臺出張所	大町二丁目	一二九六
ニュージランド火災海上保險株式會社仙臺代理店	定禪寺通七	二二五七
豊國火災保險株式會社仙臺支店	南町	六九七
東京火災保險株式會社仙臺支店	國分町	三五
東京海上火災保險株式會社仙臺代理店	新傳馬町	一〇八二
東神火災保險株式會社仙臺出張所	大町三丁目	八七四
東那火災保險株式會社仙臺支店	南町通り	一〇七五
東洋火災保險株式會社仙臺駐在所	國分町	一二三四
東洋海上火災保險株式會社仙臺總代理店	東二番丁	二七〇五
千代田火災保險株式會社仙臺支店	大町二丁目	七九八
中央火災傷害保險株式會社仙臺支店	國分町	三四三
大阪海上火災保險株式會社仙臺出張所	國分町	一八三



大倉火災保險株式會社仙臺營業所	大町三丁目	四一	一一
神戸海上火災保險株式會社仙臺營業所	南町通り	四	二七
横濱火災海上保險株式會社仙臺支店	南町	一	四五
大北火災海上運送保險株式會社仙臺支店	國分町	一	二五
大正海上火災保險株式會社仙臺出張所	南町	一	六四
第一火災海上保險株式會社仙臺出張所	大町三丁目	二	一九〇
大平火災海上保險株式會社仙臺出張所	東五番丁	四	七八
大平洋海上火災保險株式會社仙臺支部	多門通り	九	四六
福壽火災保險株式會社仙臺出張所	本荒町	一	〇六
富國火災海上保險株式會社仙臺駐在所	東八番丁	三	一六
扶桑海上火災保險株式會社仙臺支部	南町	二	九二
帝國海上火災保險株式會社仙臺支部	大町一丁目	三	〇四
帝國火災保險株式會社仙臺支店	國分町	一	二六
朝日海上火災保險株式會社仙臺駐在所	國分町	二	八四
共同火災保險株式會社仙臺支店	南町	七	五九
明治火災保險株式會社仙臺總代理店	國分町	五	五五

三菱海上火災保險株式會社宮城代理店	立町	一	七八
昭和火災保險株式會社仙臺出張所	國分町	二	五一
新日本火災海上保險株式會社東北支社	大町三丁目	二	六一七
日本共立火災保險株式會社仙臺出張所	大町三丁目	九	四二
大成火災海上保險株式會社仙臺出張所	南町	五	四二
日本動産火災保險株式會社仙臺支部	多門通り	三	九八
東京動産火災保險株式會社仙臺出張所	大町三丁目	一	六六
新興簡易火災保險株式會社仙臺出張所	大町三丁目	一	二二七
日本簡易火災保險株式會社仙臺分店	國分町	四	八四

(以上二社非協定会社)

(以上四社小口動産會社)

### ◇交通機關

仙臺市は北日本の首都である關係から、此處を中心とする交通機關は頗る發達してゐる。次に其の一



班を記述して見よう。

●省 線…… 東北本線は上野驛より青森驛へ達するもので、其の間に於ける最も大きな驛は勿論仙臺である。上野驛より二百七哩餘、青森驛まで二百三十九哩七分を示してゐる。常磐線は岩沼驛で本線と合し、複線を以て仙臺に入り、鹽釜線は仙臺を起點として鹽釜港まで九哩三分を有する。其の間岩切驛までは複線で進み、此處から分岐して千賀の浦曲へ向ふのである。

仙臺驛から直進列車を出して居るものに石巻線と陸羽東線とがある。何れも小牛田驛から分岐するもので、前者は石巻市を、後者は羽前新庄を終點としてゐる。此の外大船渡線氣仙沼町行きありて、一ノ關より分岐してゐる。

奥羽本線への連路は陸羽東線によるものと、東北本線で福島へ行つて、これより乗替へるものと二つあり、更に北行して横黒線の便によるには黒澤尻で乗替へをせねばならぬ。

●宮城電鐵…… は仙臺驛前を起點として鹽釜、松島、東北須磨（野蒜海水浴場）を経て石巻へ通じてゐるが、其の間を時間的に見れば、鹽釜へは三十分毎に松島、野蒜、石巻へは一時間毎に發車してゐる。

石巻迄の料金は壹圓三拾錢である。

●仙臺軌道…… 市の北方通町に其の起點を有し、七北田、吉岡を経て中新田町及陸羽東線中新田驛へ通じてゐる。

●秋保電車…… 長町より秋保温泉地まで開通してゐるが、其の間の太白山下には旗立遊園地の設備あり、起點長町から終點の湯本までは全長九哩六分である。

●増東軌道…… 仙臺、岩沼間の増田を起點として東へ四哩、閉上海岸へ架設されて居るのが、増東軌道で名取川の河口なる閉上濱の白砂青松に接するには此の軌道によるべきである。

●仙山東線…… 宮城、山形兩縣民が多年熱望して來つた仙臺、山形兩市を直接連絡するところの仙山鐵道は大正十五年度から起工され、現在は仙臺驛から作並温泉まで開通してゐるが、その爲同温泉の遊湯客は益々増加するに至つた。此の線は昭和十二年の完成を目ざして目下着々工事を進めてゐるから貫通の曉は現在の陸羽東線廻りや、福島經由する奥羽本線廻りに比較して殆んど三分の二の時間を節約すると共に、陸羽の經濟事情も一變せしめる事であらう。

●市内電車…… は第一期線を完成し、第二期線も着々工事進捗して最早長町驛前へ達するの間近にあり、即ち仙臺驛前を起點とし同所を終點とするもので、左廻りは南町通り、片平丁を経て西公園より大學病院前に至り、之より東へ進み又南へと縣廳前を過ぎて驛前終點に達するのだが、此の線には裏五番丁停留所から南へ分れて清水小路、荒町を通過し愛宕橋を経て河原町へ達してゐる。此の外南町停留所から北へ南町をさか上つて芭蕉の辻へ達する南町線がある。右廻りは起點から北へ光禪寺通りへ、更に西して警察署前を経て圖書館前、勾當臺通りを過ぎ大學病院前に出づるもので、之から西公園、南町通りと進んで終點驛前に達するのである。

●市街自動車（銀バス）…… 市の人口が漸次増加を見るに隨つて市街自動車は益々重要視されるに至り



現在では市内の交通機關として一日もなくてはならぬ存在となつた。即ち驛前を起點として市内各所に蜘蛛の巣の如く其の路線を有し幹線と見るべき大學病院前、長町驛前間を初めとして市内到る所に配置されざる所なく、此の外遊覽自動車の設備ありて仙臺の名所舊蹟、各種機關及繁華なる商店街を最も愉快に短時間に經濟的に紹介して遊覽客の便に供してゐる。(之は定期發車するため一人にても安心して遊覽出來、案内者が詳細に説明する) 尙市外行としては鹽釜行(驛前發) 岩沼、増田行(驛前發) 及白澤行(大學病院前發) 等ありて何れも十五分乃至二十分毎に發車してゐる。

タクシーは市内五十錢にて運轉す。

以上は既設交通機關であるが、この外仙臺を起點として鹽釜、松島を經由し松島驛を結ぶ所謂鹽松觀光バスの實現することにて、この觀光ドライブ道路は五月の政宗公三百年祭を目前に控へて完成を告げるべく着々工事進捗してゐる。元來鹽松地方は世界的に有名な觀光地なるに拘はらず、未だ適切なる交通施設がなく非常に不便を感じられてゐたが、これが建設の曉は一層其の面目を改めることであらう。

## ◇ 醫 病 院

近來醫療機關の分布が都會に厚く地方に薄い傾向が濃厚となつた事は、全國に醫者のない町村が三千五百餘に上つてゐるのを見ても明なことで、こうした現象は何に原因してゐるか云ふに、先づ都會地

は地方町村に比し病、醫院の經營上容易なる諸條件が具備されてゐることが重なる因と見なければならぬ。こうした角度から仙臺市について見るとき、東北第一の都市として發展性を有し、年々人口が激増する半面病氣に冒さるゝ者も多く、施療もあるが有料も多い等の外、東北帝大醫學部に附屬する研究機關及諸官衛が多くある事等が關係して病醫院の數が非常に多く、現在官公立六、私立、所謂開業醫が百二十餘の現状にて市内各所に配置、開業して二十一萬五千人の健康を掌つてゐるわけである。

官公立で重なるものに、東北帝大醫學部附屬病院、仙臺市立病院、鐵道病院、逓信診療所、衛戍病院等あり、此の外簡易保險健康相談所があつて各加入者の健康相談に應じてゐる。私設にも前記公設に劣らぬ諸設備の完全なる病醫院多く、中には醫師數人を擁して各科を設置し其の經營に當つてゐるものもあるが、大部分は専門の科で比の點町村の開業醫とは趣を異にする所がある。

内科では北四番丁の佐藤病院、本荒町の柳橋病院、東一番丁の伊藤廣畔病院及び東四番丁の青葉病院等が有名であり、外科に於ては元寺小路の岩本病院が患者最も多く、耳鼻咽喉科としては東三番丁の河西醫院及び東三番丁宮城女學校向ひの鈴木醫院等患者の信賴を集め、殊に鈴木醫院は故渡邊貞助博士の後に開業し、現在では毎日八十人の患者を下ることなく待合室の玄關はいつもその履物で埋められてゐる眼科では東二番丁の阿部醫院、東三番丁の大橋醫院、本柳町の關眼科(女醫)等、小兒科では東二番丁の庄司醫院、産婦人科では東三番丁五城館向ひの久家病院あたりが、技術に於て設備に於て理想的とされ巷間に評判がよい。



以上は市内に於ける各科の代表的なものを挙げたもので、何れも文化的醫療機關としての價値を充分に備へてゐる。

## ◇銘産品

- 仙臺平……二百五十餘年の歴史を有する高雅と強靱なる地質とを特色とした織物で、本邦袴地の代名詞となつた銘産品である。近年更に其染色、縞柄等改良を加へ益々世の賞讃を博してゐる。
- 八ツ橋織……元祿時代の創始にかゝるもので、近來松島の風景等を織り出し一段と優美高尚の度を加へて來た爲めに婦人物に愛用せられ、就中袷紗及び手布、風呂敷などの需用は漸次激増の姿にある。
- 地織木綿……織絲の太き爲め地質極めて強く、價格又低廉なるを以て名あり、近年其染色、縞柄等も舊態を蟬脱して需用頗に激増を示しつゝある。
- 常盤紺形と印半纏……獨特の原料を以て模様を附し、精良の藍染となしたるもので褪色せず、價格又低廉なるを以て需用は年々増加してゐる。殊にも仙臺の印半纏は染料の精良と意匠の優れたる爲め需用最も多く、其販路は關東、東北、北海道は勿論關西方面にまで販路の擴張を見つゝある。
- 埋木細工……古より當地方に埋木の産したことは古歌によつても知ることが出来るが、現在市の銘産として著名な埋木細工は文政年間、藩士山下周吉青葉山警衛中埋木を發見して之を加工し、各種の器

具を製作したのに創ると云はれてゐる。今猶青葉山、八木山一帶の亞炭層中から豊富に埋木を採取してゐるが、稀な天然産の材料であるのと、一種上品なる色澤があるので、昔から或は置物に小箱に、又は盆に茶托に、其他種々の品物に細工せられた。而して其の細工の技術も彫刻、指物、象嵌、蒔繪等色々工夫せられ、一時大に世に嗜好に投じたけれども、品種、意匠が千遍一律に墮し稍々不振の状態に陥つた。然るに最近縣市當局の奨励と當業者の努力により、又工藝指導所、工業試験場等の助力を得て、意匠並に製作技術の上に於て面目を一新し、今や更生の途上にある。殊に若い熱心な青年製作者の作品は商工展其他の權威ある展覽會、競技會に入選受賞の榮を擔つて居るものも尠くない。

●漆器……仙臺市に於ける漆器は、藩祖政宗公開府以來歴代藩主の保護奨励によつて次第に發達したものであるが、殊に三代綱宗公の時代は他の諸工藝と共に其の爛熟時代を現出し、幾多名工を輩出した。彼の蒔繪師松龍齋、研出の鼻祖紋三の如き名工の技術は長く後世の範とせられた程である。然るに維新の變革に遭遇して一時殆ど全滅の姿となつたけれども、明治二十年頃に至り稍々恢復の緒に就き爾來年を逐ふて發達し今日に至つてゐる。其の傳統的な技術として現存してゐるのは根來塗、木地蠟塗、青貝塗等であつて、素地、塗共に堅牢なると技術の優秀なる点を特色としてゐる。猶此の外に近年の新考案になるものに、抜模様塗、七寶塗、東華堆朱等がある。就中東華堆朱は一種の擬堆朱であつて、青貝塗器と共に遠く海外各地に輸出せられ好評を博してゐる。

●指物……指物は本市工産品中其の産額に於て重要な地位を占むるものであつて、昭和九年には



年額約五十萬圓を産し益々發展しつゝあり、其の種類は和洋家具、建具等であるが、特に名産として著名なのは櫨の前板を木地蠟に塗つた所謂仙臺箆笥と稱する塗箆笥である。遠く藩祖公時代の考案に其後改良を加へたるものである。塗の美と金具の雅致によりて一時海外に迄輸出せられたこともある。昨今は桐箆笥の需要漸次盛となり、舊時の盛況を見ることは出来ないが、木地蠟塗茶棚及唐机の類は今尙相當の産出を見る。猶近時時勢の進運に伴ひ洋家具の需要とみに増し、一方製作技術の進歩に伴ひ面目を一新し相當大規模の機械作業工場の出現を見るに至つた。

●毛筆……藩祖時代御用筆師に命じたるに創まり、關東北、北海道を販路としてゐるが、特産『五色筆』は宮城野の萩、末の松山の松、實方中將墳墓附近の片葉の薄、野田の玉川の三角葎、名取川の蓼を軸とした頗る雅趣に富んだものである。

●鯛味噌……古くから近海に鯛の漁獲が多かつた爲めに案出されたもので、風味佳良、名物の一に數へられてゐる。

近年容器等も改善せられ、土産品として好評を博してゐる。

●堤焼……昔堤焼、杉山焼、乾馬焼、末永焼等高雅優逸なる器物を作つたのであつたが、近來は僅かに器物、土管、甕等の類を主とするに至つた。

●堤人形……堤焼の堤人形は古來有名なもので、素焼に彩色を施した頗る雅趣に富んだものとして愛玩せられ、一時衰微の有様であつたのを近年再興の上これを優美な現代式に改めたので再び土産品と

して珍重さるゝに至つた。

●仙臺味噌……所謂仙臺味噌として品質の優良なると香味の佳良なることは世上既に定評あるところ近時舊來の製造法に改良を加へた爲め益々名聲を揚げ、内地は勿論滿鮮、南洋方面にも旺んに輸出せらるゝに至つた。

●醬油……古くから盛んに醸造されたもので、維新後原料其他に改良を加へると共に頓に品質佳良となり、且つ値段の低廉なる爲め益々其の聲價を高め、今や關東、東北、北海道は勿論滿鮮方面にまで販路を擴張するに至つた。

●酒……舊藩時代には御酒藏なるものがあつてこれを醸造し來たが、其後は岩井、伊澤等の各醸造家が「御軍用御酒屋」として扶持を給せられ銘酒を醸出したのであつた。維新後醸造家の數も増加し漸次醸造法の進歩と共に益々改良を加へて、今日に至つては醸造石數の如き年々増加し、鳳山、竹に雀、勝山、萬歳、しら梅正宗、菊川、長久正宗、稻の花、千松島、天賞等優良酒として全國的に名聲を馳せるものも非常に多くなりつゝある。

●菓 子……昔からの名産菓子として鹽釜、ゆべし、谷風餅、ほしの梅、よし飴等があつたが、明治三十四年の明治天皇の行幸を記念して九重が産出され引續いて出來たものに、政岡豆、松島豆、萩の露、陸奥の花、千代の花等がある。尙近來特製品として風味佳良なるもの相當産出するに至り、就中八木山饅頭、仙臺通寶、磯松島、皇國の華、森の精、松島音頭、谷風ゆべし、千代の萩等は仙臺の代表



的名菓として珍重がられてゐる。

●竹行李…… 舊藩時代に於ては仙臺に産出するものを御用籠、氣仙より産出するものを氣仙行李と稱し一般に愛用されたが、維新後は信洲葛籠に模してこれを製出すると共に盛に外國にも輸出するに至り、或は組合を組織し、或は縣市の獎勵にて製造方法の統一を圖り、價格低廉、構造堅牢の点に於て益々聲價を高めつゝある。

●雨 傘…… 舊藩時代には微祿の士及び町職人によつて獨特の製品を製出したものであつたが、近年は雨傘改良組合を組織し、岐阜傘に倣ふて外見に雅致を加へ、構造に堅牢を添へたのでますます需要を高め生産高も年々多くなつてゐる。

## ◇商店街

昭和三年の産業博覽會を一契機として仙臺市の商店街は、店舗の裝飾、ウエンドの改良等に於て全く一變し、大仙臺市としての面目を一新した感があつたが、更に昭和八年四月デパート三越の進出は仙臺市の商店界にとつて下田港に黒船の到來を思はせる大動搖を來し、閉店するもの、方針を改へて専門店となすもの、三越附近に移轉するもの等續出して革命的な一大轉換を思はせたのであつた。爾來各商店は急速に整備して仙臺の銀座と稱される東一番丁の繁華なる市街は北部に延長され、道路は舗裝擴張し建物も舊態を改めて全く近代都市としての形を整ふるに至つた。

東一番丁大町より南の大通りには一年を通じて毎夜、夜店が開かれ往來の人で夜の一番丁に一層の賑を呈し、傍の中央マーケットにはコリントゲーム、玉突き、輪投げ、射的、演藝(無料公開)等あり、遊藝場として晝夜雜踏を極めてゐる。

一番丁に於ける重なる商店としては、三越、藤崎の兩デパートを初めとして、西内樂器店、繁田園茶舗、九重にて有名な玉澤總本店及大黒屋小間物店、丸屋洋品店、明治製菓賣店、キリンビール支店、タケヤ洋品店、山平果物店、西内足袋店、木内眼鏡店、大原屋呉服店等各々一流商店が數へられ、更に南下し大通へ來ては、大一樂器店、加金裝飾店、廣瀬食料品店等で何れも大商店たるの貫録を示して居る。驛前名掛町より新傳馬町、大町五丁目、芭蕉の辻までの間は仙臺として東一番丁に次ぐ繁華な街にして、晝夜交通整理員の必要あるを見ても如何に往來の雜踏するか、伺はれ、兩側の店舗は華麗なる、ウエントの裝飾によつて充分購買力をそゝつて居る。この通りに於ける重なる商店としては、驛前名掛町角より中川時計店、淺見一平商店を初めとして熊谷帽子店、渡邊金物店、岩崎呉服店、三文字屋呉服店、菅原園茶舗、馬淵商店、高木酒造店、日進堂本店、鈴木英華堂、佐々重商店、十一屋洋服店、父母商會三原時計店、文房堂、佐恒商店、齋川運動具店、紅久本店、金港堂等何れも商店街を代表するに充分なる發展振りを示して居る。

## ◇市内年中行事



舊藩時代には正月三日御野初(オノソメ)を始め種々の行事があつたが、段々と簡略となつて来て今はわづかに其面影を残すに過ぎない。

●元朝詣……新舊暦の元旦早朝神社に詣る事で、殊に鹽釜神社、竹駒神社は盛んであつて爲めに臨時列車及び電鐵の終夜運轉等があり、終日雜踏を極める。

●松焚祭……門松や御飾繩等を一月十四日の夜大崎八幡神社境内で焚く祭事で、十四日の夕刻から翌朝に至る迄引き、らずに混雜を呈し、裸詣等もあつてナカ／＼の賑はしさである。近年は東照宮、釋迦堂に於ても此行事をやるやうになつた。

●お回向……五月十三日に北六番丁の萬日堂、天神下の願行寺、荒町裏の常念寺の三ヶ所で毎年輪番で施行せられ市内は勿論近郷近在からの參詣者が群集する。

●青葉神社祭……春秋二期(五月の廿四、五兩日及び十月九日)藩祖貞山公を祀る祭禮で、舊藩の子弟一般市民、學校兒童等の參拜あり、神輿渡御、流鏑馬、神樂等もあつて市内第一の大祭典である。

●七夕祭……八月六日の夜笹竹に短冊、吹流し、紙の衣類等、色々の意匠を凝らしたるを戸毎に樹て並べるもので、仙臺特有の名物として全市雜踏を極める。翌朝は一齊に之を廣瀬川に流すのであるが近年に至り商店街が競ふて盛大にやるやうになつたので飾物も一層立派に頗る見事なものばかりになつた。見物人も近郷は勿論遠く東京方面からも團體で來ると云ふ有様で、六日、七日の二晩やるので宮城電鐵、省線等に於ても臨時列車を出すと云ふ盛況である。

●盆 火……孟蘭盆三日の間夜各戸軒前街路に松薪木を高く積みて焚火をなすものとして、街路はさながら晝の如く又た火の川の如き壯觀を極める。

●羽柴祭……九月十五日に行はれる大崎八幡神社の祭禮で、流鏑馬、神輿の渡御等があり、的奪ひが有名になつてゐる。

●御天王様……七月十六日の夕、木ノ下須賀神社、南町磯良神社(河童神)、北六番丁天王社等へ胡瓜を納める祭事で、地方ではその後に於て胡瓜を食ふ風習である。祭典はかくして夜半に至るもので參詣者頗ぶる多く、町内では種々の餘興を出して一層の賑ひを呈する。

●仲見世……師走の廿五日から正月二日の初賣り迄、歳暮正月用の年繩縁喜もの其他日用品を賣り捌く特設の市場で「仙臺の仲見世」「歳の市」と稱し有名である。昔は芭蕉の辻を中心として小屋掛けしたものであるけれども、近年は東一番丁大通りと東二番丁等に開設し、各種の興行物なども建つて連日繁昌を呈する。

●お花見……四月中旬より榴ヶ岡東公園に枯垂櫻の老木數十株枝を交へて花のトンネルを實現する時、其附近には掛茶屋、見世物などを設備して全市民の歡樂境と化し、他府縣よりの遊覽團體も入り込んでさまざまのお花見が催される。尙外に西公園、櫻ヶ岡、愛宕山なども中々の賑かさを呈する。

●商工記念祭……毎年四月十五日は仙臺商工記念日として記念式を擧げ、更に附帶事業として當日若しくは其の前後に於て二三日に亘つて諸種の事業を行ひ、商工業の振興發展を企圖してゐる。就中懸賞



假裝行列は各町より思ひ思ひの趣好扮装を凝らしたる行列を出し非常なる殷賑を來たしてゐる。此の記念日は昭和三年の東北産業博覽會を記念し、商工業の發展を策するのが目的である。

### ◇民 謠

左に郷土藝術として、仙臺にゆかりのある民謠を選んで見る。

#### ◎さんさ時雨

さんさしぐれか萱野の雨か	音もせで來て濡れかゝる	勝凱な
此の家座敷は目出度い座敷	鶴と龜とが舞ひ遊ぶ	勝凱な
きじのめんどり小松の下で	つまを呼ぶ聲千代くくと	勝凱な
武藏あぶみに紫手綱	乗せてやりたや春駒に	勝凱な
さんさ降れく五尺の袖を	今宵ふらいで何時のよに	勝凱な

#### ◎仙臺端唄 俺が國

俺が國さで見せたいものは	昔谷風いま伊達模様	勝凱な
ゆかしなつかし宮城野しのぶ	うかれまいぞえ松島ほとり	勝凱な

#### ◎仙 臺 小 唄

竹に雀はしなよくとまる      さんさ時雨に萩が散る  
 わし國さで見せたいものは      千代萬歳萬々歳      (以下囃子前と同じ)  
 千松浦島眺めは盡きぬ      つきぬ鹽釜ものおもひ  
 片目ながらも政宗公は      世界一目よ羅馬まで  
 ロンドンの水も續くよ廣瀬の水と      三國見通す林子平  
 八木山新道でドライブしましよ      戀の裏山エロの道  
 虎屋横丁の名にこそこのこれ      色香ゆかしい花の町  
 戀のセントア、ランデブーの小路      ジヤズは一番丁の宵の歌  
 紫尾に新茶にあればとゞぎす      森の都の青葉城

#### ◎仙臺はつとせ節

未の松山すえかけまくも	神のはじめしアリヤ海の幸	ハットセく
鹽釜街道に白菊植えて	何をきくくアリヤ便りきく	ハットセく
鹽釜たつ時大手んぶりよ	奏社の宮からアリヤ胸勘定	ハットセく



◎伊 達 小 唄

花は散るくつゝじが岡に 今宵人波名残りの宴  
 さつさ踊れよさくらは待たぬ あれさままた散る花が散る  
 森の都は朝霧小霧 すゞろ輕風縁に薫る  
 薫る調よ仄な聲は 夢の鳥かよかんこ鳥  
 懐し昔の面影偲び そぞろ廣瀬の河原を行けば  
 盡きぬおもひに流の面に さんさ時雨の雨が降る  
 降れよ降れく大雪小雪 やがて夜明けりや朝日は笑ふ  
 笑ふ朝日に色増し榮えて 竹に雀が千代くと

仙臺市外記丁  
 土木建築 小山組本店  
 設計請負  
 電話 三七四九四番

◇名所と舊蹟

▲榴ヶ岡……市の東端に在る小丘で『東公園』とも云ふ。昔は紅榴が咲き亂れ、これを布に摺つてつゝち摺と名付けたことか風土記に見えてるが、今はただ見渡す限り枝垂れ櫻の老樹が枝を交へ、春の花盛りには文字通り花のトンネルが出来て頗る見事である。この頃は花を観る人、觀らるる人、四方から雲集して一大歡樂境と化する。殊に近年は觀光協賛會、仙臺放送局等が主唱し連日連夜の歌踊大競演會や其他各種の催し物があつて一層の賑ひである。境内の北に釋迦堂、西に天神社がある。『釋迦堂』は三代綱村公が、生母三澤初子（芝居の政岡）の冥福のために元祿八年に建立したもので、その由來を記した碑が堂の前に在る。『天神社』は寛文十七年綱村公の建立したものである。公園一帯は名勝地として指定せられてゐる。

▲三澤初子の墓……（俗稱政岡の墓）榴ヶ岡の南西、孝勝寺の裏手に在る。寺内には所謂政岡の木像や衣類調度三百餘點を藏し觀覽の便がある。戯曲に所謂『政岡』とは假作の人物で、幼主を守護したのは初子自身であつて、政岡としたのは、初子に仕へた老女淺岡を擬したものであるといふ。初子は三澤清長の女で、伊達綱村公の生母、貞享三年四十八歳で没した。

▲宮城野……榴ヶ岡に接する東方一帯の廣野で、昔は萩と鈴虫の名所であつたが、今は陸軍練兵場



となり、詩藻を湧かすやうな風景はなくなつた。原の北方に『乳銀杏』と稱する高さ十丈、周り二丈餘枝から數條の氣根が垂れた世にも稀なる大木がある。その側に姥神を祀つてあつて、乳の出ない人が祈願をこめれば乳が出るといふので參詣者が絶えない。樹齡約千二百餘年といふ。

▲國分寺藥師堂…… 宮城野原の南、木の下といふ所に在る。聖武天皇勅願、國分寺の一つである。十大伽藍も今は荒廢して、藥師堂側の一字にその名を残すに過ぎない。『藥師堂』は十大伽藍の一堂で本尊は闍浮檀金の秘佛、運慶作の藥師瑠璃光如來を安置する。堂宇は慶長十年、政宗公の再建したもので、先年特別保護建造物に指定された。二王門の神像亦運慶の作である。

▲大年寺…… 古昔の茂ヶ崎城の址で、愛宕山の南に在り、綱村公以下伊達家累代の墳墓がある。寺は鐵牛和尚の開山で兩足山と號し、元祿八年綱村公の建立に係る。當時は十七の大伽藍があつて、松島の端嚴寺と並稱されたもので、今はその壯觀を存してゐないが、五月の政宗公三百年祭までには本堂の再築を實現すべく目下その準備を急ぎつゝある。

▲愛宕山…… 仙臺驛より南方約二十丁、自動車の便あり。廣瀬川に臨むだ斷崖の高丘で、向山とも云ふ。丘上には愛宕神社、虚空藏堂がある。境内に明和六年の鑄造に成る大梵鐘がある。市民に出火を報ずる警鐘で、俗に向山の早鐘といふが、今はでは餘り警鐘に用ゐなくなつたが、由緒ある鐘である。丘上より展望するときは、廣瀬川を隔て、仙臺市市街を俯瞰し、右方は仙臺平野を越へて、遙かに渺茫たる蒼海と、雲煙模糊の間に金華山の靈峰を望み、左方近くは泉ヶ嶽、七ツ森の群巒、遠くは栗駒山の

秀嶺を見る。眼界廣闊、展望絶佳、登臨の客四時絶えない、仙臺第一の展望臺である。

▲瑞鳳殿…… 仙臺驛の西、愛宕山に連り、東北大學の對岸に老杉鬱蒼たる高丘がある。經ヶ峰といつて、こゝには伊達家三代の靈廟がある。『瑞鳳殿』は藩祖政宗公の靈廟である。二百八十餘年前、二代忠宗公の造營に係り、神社と寺院の建築様式を巧に取り合せた建物で、結構壯麗、日光廟にも優るといはれてゐる。奥の院には衣冠束帶せる府宗公の木像が安置してある。明治三十四年十一月八日 明治天皇仙臺に行幸のとき、行宮より勅使を公の墓前に差遣はされ、教旨を以て正三位を贈らせ賜ふた。『感仙殿』は二代忠宗公の廟。『善應殿』は三代綱村公の廟である。此の兩廟の樓門廟址は、明治初年官軍のため無下に打壞はされて今は跡方もない。參道の中途左側に『正宗山瑞鳳寺』がある。政宗公の靈牌を安置してある。

▲仙臺城址…… 『青葉城』市の正西、廣瀬川を隔てたる一帯の丘陵、鬱蒼たる老樹新木の生ひ茂りたる樹の間に樓門、壘壁を隱見する所、是れ伊達氏の居城青葉城の址である。本丸は慶長六年藩祖政宗公之を築き、二の丸は二代忠宗公、寛永十五年に増營したものである。明治元年城址は返上、その後建物は或は毀れ、或は火災で烏有に歸した。災厄を免れた櫓『大手門』と寅の門、巽門とが纔に昔日の偉觀を留めてゐる。大手門は文祿征韓の役、秀吉公の本陣肥前名護屋の城門であつたのを、政宗公申し受けて此處に移したもので、菊桐の金紋は、後水尾天皇から賜つたものであるといふ。見るからに壯大雄偉の感を起さしめる。二の丸址には現今『第二師團司令部』が置かれてある。大手門から本丸に通する一帯



は、師團から解放されて、今は通行自由となつた。司令部から北二丁元騎兵隊跡は（現仙臺第二中學校々地）昭和三年の博覧會第一會場に充てられたのであつた。

▲青葉山公園……青葉城址一帯の地で、本丸城廓の址には、招魂社と昭忠碑（高さ六十七尺餘、塔上に金鶏を戴く）が建て、ある。柵によつて望めば、近く脚下に全市を一眸の裡に收め、遠くは瑠璃一碧の大洋を望み、更に眼界を轉じて左右を顧れば、遠近の群巒秀嶺手に取るが如く、その眺望は自ら愛宕山のそれと趣きを異にした佳景である。春は櫻花爛漫、祿樹の間に紅霞とたなびき、秋の満山の紅葉は二月の花よりも紅に、其の美其の壯、唯だ感歎するばかりである。殊に晩春より初夏にかけ、全山の新緑青風を起す頃は一層の景趣を加へて眞に青葉山の名に背かない。更に二の丸址の原始林のやうな茂みに至つては幽邃の極といふべく、正に塵外の仙境で、眺望風景共に絶佳である。

▲八木山遊園地……天守臺がらドライブ道路を南に龍ノ口澤の峽谷に架したる八木山鐵橋（工費三萬五千圓、八木久兵衛氏寄附、昭和六年秋竣工）を渡れば八木山遊園地一帯の展望地がある。グラウンド子供遊園、その他があり、四季の散策地としてのみならず、新緑、紅葉の美に至つては近郊に其比を見ず、仙臺の新名所として杖を曳く者が多い。

▲櫻ヶ岡……西公園ともいふ。仙臺驛から電車に乗つて約十分、大町一丁目頭で下車する。左手に亭々として參天の勢を示す大銀杏の樹が目につく、此の邊一帯が公園である。地域は餘り廣くはないが近く廣瀬川を隔て、青葉山公園と相對し遠く陸羽の分水嶺を望む。園内には政宗公が文祿の役、朝鮮か

ら持歸つて植ゑたといふ八房の梅、また宮城野から移植した有名な萩や、その他種々の花卉ありて四時妍を競ひ、眺望風景ともに佳く、榴ヶ岡とその趣を異にした散策公園である。櫻岡大神宮、園の中央に鎮座す。その南に『市公會堂』北に『偕行社』がある。

▲龜ヶ岡八幡神社……市の西端、青葉山に連る川内龜岡の町丘陵龜岡山にある。應神天皇、玉依姫、神功皇后の三柱を奉祀す。社殿は天和三年、綱村公の造營に係り、伊達氏の氏神であつた。境内高爽にして眺望に富む。

▲大崎八幡神社……市の北西、八幡町に在る。慶長九年伊達政宗公の造營したもので、その結構様式は、本殿、拜殿、石の間を合せて八棟造、柿葺の桃山式建築である。拜殿正面の軒端、唐破風の下左右に太閤桐の飾り金具がある、見落してはならぬ。先年社殿に大修理を加へて古への美觀に復した。今は特別保護建造物である。

▲龍寶寺……本尊釋迦如來の立像は天竺の名工毘首羯摩の作で等身の巨像である。明治三十六年國寶に編入された。

▲林子平の墓……電車を大學病院前で乗り捨て、北西に行くこと約五丁、伊勢堂下龍雲院に在る林子平は憂國の先覺者で、海國兵談、三國通覽等の書を著して幕府のお叱りを受け、版木は没収された上寛政四年身は仙臺侯にお預けとなつた。

親もなし妻もなし子もなし版木なし 金もなければ死にたくもなし



六無齋と號したのは此の時である。翌五年幽囚中に没した、年五十六。明治の聖代になつて、子平の先見を御追感あらせられ、明治十五年、正五位御追贈の御沙汰を下された。

▲青葉神社…… 芭蕉の辻の西北、通丁の衝當り北山の丘上に在る、藩祖政宗公を奉祀す。明治六年勸請、同七年武振彦命の神號を賜り縣社に列した。現社殿は大正五年工を起し、經費拾六萬圓を要して昭和三年春落成を告げたものである。

▲支倉六右衛門常長の墓—— 三百餘年前伊達政宗公の特使としてローマに赴き、初めて歐南に日本人の足跡を印して、我國外交史上に、政宗公の雄圖と共に一異彩を放つてゐる。支倉六右衛門常長の墓は青葉神社の東、光明寺中に在る。元和八年五十二歳で没した。聖恩枯骨に及び、大正十三年正五位を御追贈あらせられた。先年ローマ法王特派使節が墓側に手植したる記念樹は、今に渝らぬ國交の親睦を、その緑の葉の上に見せてゐる。

▲東照宮…… 俗に權現山といふ。市内宮町の行き當り、老杉に蔽はれた丘の上に在る。昔は結構壯麗、日光の廟所に亞ぐといはれた社殿は、承應三年忠宗公の建てたものである。境内に葵の木の老木がある。その年代を知らず。社殿の東麓一帶の平野は『玉田横野』とて昔の放牧場で、前には仙山鐵道と仙臺鐵道の線路がある。その側に『露なしの里』の名所がある。

▲芭蕉の辻…… 市内大町四丁目、國道と縣道の交叉したる十字路をいふ。今宮城縣里程元標がある。辻の四隅には粉壁青瓦の宏壯なる同型の建物があつて頗る偉觀を示してゐたものであつたが、屢々火災

に罹つて焼け失せ、今は北西の一角だけが残つて當時の佛を偲ばしめてゐる。昔此の地に芭蕉といふ政宗公の間牒を勤めてゐた虚無僧が住んでゐたので、芭蕉の辻といふたのであるとも傳へられてゐる。

▲養賢堂…… 市内勾當臺通、宮城縣廳構内に在る。舊藩の學問所で、寶曆十年の建物、二十四間四面の大廈である。傍に老松がある、『學興繁榮松』といつて、七代重村公遺愛の松であるといふ。養賢堂址は史蹟名勝天然記念物保存法によりて史蹟に編入された。

▲東一番丁…… 昔は鹽倉丁(大町以南)、糠倉丁(大町以北)ともいつて、鹽倉や糠倉があつた至つて寂しい靜かな街であつたが、今は常設の活動寫眞館、料理屋、藝妓置屋、待合、カフェーから遊技場、その他あらゆる商店軒を並べる所謂仙臺花柳界の中心地で、絃歌嬌音の絶ゆる時がない、殊に夏の夜は夜店が張られ夕涼みの人で路が塞がる、市内第一の歡樂郷である。

▲高尾の墓…… 驛より南へ十五丁、荒町佛眼寺境内にある。

▲谷風の墓…… 驛より南へ十五丁、南鍛冶町東漸寺に在り、谷風は『わしが國さで』と諺はれた名力士で、寛保三年宮城郡霞の目に生れ、寛永七年四十六歳で没した。身丈七尺、體重四十三貫、江戸大相撲の横綱として雷名を轟かした相撲歴史中の大立者たることは今尙人の知る所である。

## ◇遊覽順序

市内名所舊蹟跡を最も有利且經濟的に遊覽するには、驛前から市内遊覽自動車に乗るのが最も便宜で



あるが、別に自動車を雇つてするとなれば概ね左記の順序によることになつてゐる。

### 小廻り見物順序

自動車 約一時間——仙臺驛⇨榴ヶ岡公園（歩兵第四聯隊、宮城野）⇨孝勝寺（政岡の墓）⇨東北帝大（理、工、法文）⇨控訴院（地方、區、裁判所）⇨櫻ヶ岡公園⇨青葉城址（第二師團司令部）⇨東北帝大（醫學部、同病院）⇨縣廳（市役所）⇨商品陳列所⇨東一番丁⇨芭蕉の辻⇨大町⇨新傳馬丁⇨名掛町⇨仙臺驛

### 大廻り見物順序（×印ハ小廻り以外ノ場所）

自動車 約三時間——仙臺驛⇨東照宮⇨榴ヶ岡公園（歩兵第四聯隊、宮城野）⇨孝勝寺（政岡の墓）⇨東北帝大（理、工、法文）⇨端鳳殿⇨控訴院（地方、區、裁判所）⇨櫻ヶ岡公園⇨青葉城址（第二師團司令部）⇨大崎八幡神社⇨林子平の墓⇨東北帝大（醫學部、同病院）⇨青葉神社⇨支倉常長の墓⇨縣廳（市役所）⇨商品陳列所⇨東一番丁⇨芭蕉の辻⇨大町⇨新傳馬町⇨名掛町⇨仙臺驛

## ◇旅 館

仙臺市の旅館は、もと市の中央部國分町に多くあつたが、明治二十年鐵道開通と共に現在の仙臺驛前

に、仙臺ホテル、針久支店、奥田旅館を始め十餘軒が開業し、其他南町、國分町、肴町、元寺小路、南町通り、東二、三番丁に散在するものを合せ大小五十餘を數ふるに過ぎざりしも、市の發展につれて漸次増加を見、現在では大小合せて八十五軒の多數を算し、各旅館の設備も改善され最近では全く舊態を改むるに至つた。即ち重なるものに國分町の針久本店を初め菊平、瀬戸勝、南町の境屋、多門通り東一角の及川、驛前の針久支店及青木ホテル、奥田旅館等何れも客室の完備せる高級旅館として有名である。尙旅館組合ありて業者間の親睦を圖り、その改善に努めてゐるが、現在市内一日の收容人員は五千人とされてゐる。

## ◇花 柳 界

### 料 理 店

仙臺の料理店としては宮古川、八百衆、青葉及び仙臺名物の一なる『さんさ時雨』ハットセ踊の家元として蒸の名聲を天下に馳せてゐる對橋樓をはじめ入升、松竹、春日、ひさご（陸奥園）、梅林等が有名なもの内に數へられてゐる。眞佐古、同花、東洋館、都鳥其の他の割烹店も近來は江戸前または上方式のおつな料理を出して相當の繁昌を示してゐる。

宮古川は市内の最も繁華の中心である東一番町に宏壯なる建物を構へてゐるのが夫れで、料理店としては正に東北一といはれてゐる。八百衆も東一番町にありて、建物や器具は京都式で瀟洒を極め、氣分



のよい大廣間と庭園を有し、従つて座敷の設備も完全で踊舞台も整へてゐる。元蝦治丁の青葉はやはり庭園も廣間もあつて、前記二軒に相並ぶ大料理店である。ひさごは東一番丁にあり、座敷の設備も理想的で閑靜な庭園を眺めての遊興も亦一入風情がある。立町通りの入升は建物の洒脱と座敷の氣分のよい事で其の名を賣り、梅林は俗に山の梅林と稱して、明治九年 明治大帝東北御巡幸の際御行在所としての光榮に浴した由緒ある旗亭で、東公園釋迦堂にある。松竹は市の中央部虎屋横丁にあり、總てに上品な割烹店として鳴り、東二番丁の春日は上方式鳥料理専門の料理店として知られてゐる。尙この外に東一番丁、立町通り、大町五丁目新町等の花柳界を中心として市内隨所に特有の料理を自慢としてゐる店が澤山ある。

西洋料理としては、國分町に高級カフェーとして誇るに足るエーワンをはじめ、東一番丁に西洋料理と撞球場と喫茶を兼ねたブラザー軒あり、芭蕉の辻の仙臺精養軒も洋食、集會、喫茶店で知られてゐる尙東一番丁中央部にある高尚な四階建の明治製菓賣店は、西洋料理、並に喫茶店の諸設備があつて仲々盛況である。仙臺會館は大町五丁目にある宏壯なる四階建の宴會場並に家庭的食堂でエレベーターの設備があり、西洋料理と日本料理、喫茶、撞球場を兼ねてゐる。アポロ、金の星、祇園等も相當に知られてゐるが、此の外市内隨所に紅燈を掲げてゐる店が無慮二百餘軒の多きに上つてゐる様なか／＼盛である。

### 番 街 情 緒

仙臺の藝妓に就ては、古くからくさ／＼の物語りが残されてゐる。廟堂に名聲を馳せた政界の名士や三軍を叱咤して立つ猛將軍連中に、根引された玉の輿組も少くはなかつた。其後幾多の變遷を経て今日に至つてゐるが、此の仲間に重んずべき意氣と張りとを益々發揮して、仙臺藝妓の向上をはかることに腐心してゐる。

置屋は仙臺藝妓置屋組合と稱し、其の事務所を東二番丁に置き事務一切を處理してゐるが、此の組合員は五十五軒で、藝妓は百四十一人、半玉が二十三人で、東一番丁より虎屋横丁、本櫓町附近及び大町五丁目新町、東二番丁、赤井横丁等に紅燈の軒を並べ享樂の巷を現出してゐる。

### 待 合 茶 寮

待合茶寮は近年著しく増加し、同業組合を組織して統一を圖り、席料を協定し、飲食費其の他は客の好み次第とあつて、料理店とは自ら趣を異にしてゐる。是等の多くは東一番丁附近より本櫓町一帶の界限の大路小路に散在し、粹な格子戸から洩れる淡い御神燈の光線を投げてゐる氣分はまた格別の趣が伺はれる。而して席料其の他は合せて十五圓位が普通とされてゐる。

### 小 田 原 情 味

遊廓の設置を許されなかつた維新前、風流人は五里を隔てた鹽釜へ、鹽釜街道に白菊植えて、何をき



くく「アリア便りきく」の唄とともに駕籠、馬等で通ふたものである。其後明治の初年には、宿場的に市の中央國分町に散在したのが元常盤丁に移轉し、再び小田原蜂屋敷跡の現在の所に移轉させられたもので、其の間幾多の變遷推移があつて現在に至つたが、その貸座敷業者の數は三十三軒、娼妓は二百五十名を算してゐる。

元は福福(うちかけ)姿の張見世であつたが、近頃は一般に蔭見世となつた。而して同業者は仙臺貸座敷業組合と稱して、其の事務所は廊内の所謂小田原病院内に設け、組合長以下の役員は何れも樓主中より就任し一切の事務をとつて居る。

敷物窓掛  
室内裝飾  
卓掛壁紙

### 加金裝飾店

仙臺市東一番丁  
電話七一一五番

諸官衙學校御用  
和洋菓子パン製造販賣

### 南町日進堂

電話二七五九番

## ◇鹽釜

仙臺を距る東方五里、省線、電鐵、バス共に三十分で達する。

▲鹽釜港 鹽釜港は往昔奥州香津木村また鹽釜と稱し、千賀の浦曲の一小漁港で僅に沿岸通航の一帆船か、或は漁船が出入するに過ぎなかつたが、明治二十年十二月鐵道開通と共に仙臺の仲展に促されて漸次發展の機運に向ひ、爾來物資の集散地と目せられ、船舶往來して殷賑を極むるに至つた。殊に大正四年以來の築港工事は昨年既に完成し、今や國際港鹽釜として其の面目を一新し、内外の六千噸級の船舶が自由に出入するに至つた。

斯くて往昔の一寒漁港は、今や三陸沿岸の物資を吞吐するの外、先年北海道釧路、函館等の各港に定期航路が開けたため北海道の石炭やセメントを、また築港の工事完成に伴れて大連浦潮の大豆粕や、樺太及露領沿海洲の木材等を移入するので内國船は勿論、近頃は外國船舶も入港し、横濱税關鹽釜出張所宮城縣港務所等の設置を見るに至り、加ふるに世界の漁場金華山沖合の漁獲物の荷揚港として遠近から漁船が輻輳し、自ら東北に於ける重要漁港の地位を占め港内は常に活氣横溢してゐる。

【鹽釜神社】 【志波彦神社】 は町の西北端、その昔千賀の山と呼んだ一森山の老杉鬱蒼たる裡に鎮座し社殿莊嚴にして自ら神威のあらたかなるを覺えしめる。

▲參 道……には表參道と東參道との二途がある。

▲表 參道……鹽竈驛から西約八丁、電鐵本鹽竈驛から約五丁にして大鳥居に到る。この鳥居は舊藩主伊達綱村公の奉納にかゝるもので、これに掲ぐる『陸奥國一宮』の額は舊姫路藩主酒井雅樂頭(忠以君)の筆である。急峻な石階三百二級を登り、更に二十四級にして朱塗三重組上の樓門に達する、これを表



坂又は杉坂とも稱するのである。

▲東參道……鹽竈驛より西北約五丁、電鐵本鹽釜驛から約二丁で一の鳥居に到る。鳥居に掲げられたる「鹽竈神社、志波彦神社」の兩神社名の額は、竹田宮恒久王殿下の御筆になつたもので、これより石階數段を登り修路碑を見て左に折れ、長短數區の石段を登りつめると「正一位鹽竈大明神」と題する額を掲げた二の鳥居に達するのであるが、この參道は一に「裏坂」とも、又「女坂」とも稱し、石段がゆるやかで婦人、小兒にも樂に登ることが出来る。

▲鹽竈神社……起源は、遠く御祭神の此地方に御功業を立てられし當時にある。爾後歷朝の御崇敬厚く他の官社に比して殊に重き御待遇あり、陸奥國一の宮として朝野の崇敬を盡し來つた。明治七年十二月國幣中社に列せられた。

御祭神は武甕槌神、經津主神、鹽土老翁神（又岐神とも申し奉る）の三柱におはす。上古天孫降臨の初め武甕槌神、經津主神の葦原中國を平定せらるゝに方り、鹽土老翁神に嚮導せられて遠く此地方に臨まれ、夷族歸伏の功を畢へられた後、武甕槌神は常陸鹿島（鹿島宮）に、經津主神は下總香取（香取宮）にそれぐ移らせ給ふたが、鹽土老翁神は此地に留り給ひて、民人に生業を授け、製鹽の法を教へられ至大の恩徳を布かれたので、三柱を合せて鹽竈明神として齋き奉つたのである。

▲志波彦神社……祭神は志波彦神（藻鹽場彦神とも申し奉る）と申し、土地開發の御神である。社殿はもと宮城郡岩切村なる冠川（七北田川）の右岸に鎮座ありて、延喜式内の名神大社で、明治四年早く國幣

鹽釜驛前

### 三陸汽船株式會社

電話 十 七 番  
常務 尾上 慶二  
支配人 山中 茂樹

日本石油株式會社代理店

### 株式會社 龜井商店

鹽釜港  
代表電話 五十五番

鹽釜港

回漕業 株式會社  
船業 代理業  
船業 代理業  
倉庫業 代理業  
保險業

### 白石商會

電話 八 番

### 鹽釜製氷共同販賣組合

電話 四三一 番

鹽釜製氷冷凍株式會社（電話 三一九）  
東北製氷株式會社（電話 二四〇）  
鹿島屋製氷冷藏庫（電話 一三六）  
双立製氷株式會社（電話 四一五）  
三輪製氷鹽釜工場（電話 二二九）



### 鹽釜合同運送

株式會社

電話二十番  
社長 小野彦左工門

### 株式會社 鹽釜商會

鹽釜港北濱町

電話 三三三番  
一〇三番  
四三三番

鹽釜港

### 鹽釜倉庫株式會社

電話三一二番

銘酒

### 浦霞

鹽釜港  
佐浦酒造店

鹽釜港

### 製造元 さふらん湯

遊佐一貫堂

鹽釜港

### 三陸木材株式會社

電話五四八番

鹽釜町築港

### 鹽釜魚市場

電話五九六番

鹽釜港

### 株式會社 七十七銀行

鹽釜支店

鹽釜町

### 銘酒 偉人正宗

阿部勘酒造店

鹽釜港

### 坂病院

院長 坂 定 義

中社に列せられしも、社殿狹隘、完全に祭儀を行ふこと能はざるより、明治七年十二月鹽竈神社に遷座仰出され、鹽土老翁神と別宮に御厨殿あらせられた。尙志波彦神社々殿は鹽竈神社境内に接續せる地點に新に造營することとなり、目下着々建築工事進捗してゐる。

爾來鹽竈神社、志波彦神社の兩神社名を奉稱することになつたのであるが、御社殿は慶長十二年藩祖政宗公の修造にかゝり、後元祿八年四代綱村公造營の工を起し、寶永元年五代吉村公の時竣成したものである。

▲松島遊覽道路……最近鹽竈を基點として、東宮附近、君ヶ岡遊園地に至るドライヴウエーが完成したが、一方松島海岸までの新道も開鑿せられ、松島の絶景を往復の自動車中より俯瞰し得るので、唯一の遊覽道路として既に利用者を増すに至つた。

### ◇附近の名所舊跡

▲多賀城址……鹽竈驛から約一里半、宮城郡多賀城村字市川に在る。聖武天皇神龜の年、始めて此處に鎮守府を置かれたときの城の址で、方四百間の丘陵である。中央に五十五六間の地があるが、即ち本丸の址だと云ふことである。この本丸址の南麓に古碑がある。即ち有名な

▲多賀城碑……で、その高さ六尺五分、周圍九尺六寸八分、面の濶さ二尺六寸四分、日本三古碑の一つである。この碑世に『壺の碑』と混同せられるが、今では史家の間に全然別物だと定説になつてゐる。



歌枕で有名な「末の松山」や本朝六玉川の一に數へられた「野田の玉川」、「沖の石」、「沖の井」などの名所も鹽竈驛から一里内外の所に在る。

## ◇松島

今や其名は世界的となり、やがては世界の大公園たらんとしつゝある松島は、大正十二年史蹟名勝天然記念物保存法に依り名勝地として指定された。

そもく松島とは、東に桃生郡宮戸島から西は宮城郡鹽竈稻荷山まで、南は同郡花淵岬から北方同郡富山まで仙臺灣の一部分と沿岸陸地の幾分を併せたる總域六方里、沿海線約七里に亘る間を總稱したものであつて、宛ら澄んだ鏡のやうな海上には大小無数の島嶼が星列棋布し、五山、七浦八崎と稱する陸上の丘陵岬角と相俟つて種々の景趣を添へてゐる。

これ等の島嶼は何れも石身松髪で、或は處々に洞門を作り、或は一列に皺壁を成し、或は倒れんとするもの、或は起たんとするもの、或は二重に重なりたるもの、或は三重にたゞみて左に別れ、右に連り負へるものなど、その形状千態萬様一々名狀することが出来ない。而して島上の松は石に飽きて土に渴し、幹枝は潮風の弄ぶるがまゝに任せて屈曲し、苔鮮斑にして宛ら虹龍の蟠つてゐるが如き姿を呈してゐる。又灣内は水清く、海藻靜かに搖ぐ間を遊遊してゐる魚類が、時折り水面に跳ね上つて潑刺たる勢を見せる。また灣内の一奇觀である。

松島の眺望は之を陸上よりするも、また舟中よりするも總べて佳ならざるはなく、一步を進むれば一奇を増し、一艦を挿せば一家を變じ、刻一刻と異つた景色を展開させて、人をして殆ど應接に遑なからしめる。殊に鷄鳴曉を告ぐる頃の灣内は生氣に富み、日の出は雄大である。夕日には激波に島影を映してその雅趣云ふばかりなく、雨の松島は墨繪如のく、雪の松島は清淨此上もない。月明の松島また優雅で、その絶勝なることは萬喙一聲復異議なきところであらう。現今名勝松島の最も樞要なる地域を限り松島公園として宮城縣に於て管理して居る。

## ◇松島海岸附近の名所

瑞巖寺門前から海岸の停船場附近一帯を指して俗に松島といつてゐる。こゝは松島全灣の中心地で旅館、商店軒を並べ、電鐵經營に係る遊園地其他水族館等繁華なる一市街地である。而して松島の名所舊跡は此の界限に散在してゐる。

▲五大堂……瑞巖寺總門東の島丘にある。慈覺大師の開基。五大尊中央は不動の坐像で四天は牛に乗り弓箭を執つてゐる。慶長九年伊達政宗公瑞巖寺建立の日、舊堂を修造されたもので結構素朴恬淡、瑞巖寺の本堂と共に今は特別保護建造物に編入されてゐる。舊堂は大同二年坂上田村磨の建立したものと傳へられてゐる。前櫓に「乾元二年七月十日奉掛松島五大堂寶前眞壁助安入道同勸進又五郎爲武運長久」と記した鰐口が掛かつてゐる。島は老松蟠屈して其の影を碧潭に映し、島上の眺望頗る佳く、雄島



と並んで松島灣頭の双美である。長短二橋を架して陸と續いてゐる。

▲大觀山…… 五大堂と對して陸の方に高臺がある、大觀山といふ。全灣の勝を占め眺望の美を極めてゐる。明治三十九年故徳川慶喜公其絶勝を賞して『大觀』の二字を揮つた。山の名の由來である。山巔に樓閣がある、白鷗樓といふ。伊藤博文公の名づくる處、貴賓の宿泊に充てられてゐる。山中に『勅使の松』『三光の碑』などがある。

▲三交の松…… 宮城電鐵松島停留場前廣場、パークホテル、松島劇場の裏手路傍に屹立せる怪巖の上に、昔は三株の梅、松、櫻が根を交へて蟠つてゐたのが天下の珍として觀賞されたものであつたが、惜しいことには梅は何時しか枯れて今はない。

▲西行戻しの松…… は三交の松から左手の山にさしかゝる長老坂を登り盡した路傍に在つて、衆木を抜いて高く聳えた老松がそれである。こゝから南に進むと路は次第に爪先上りとなつて、終に朱鳥山といふ松島五山の一たる高巒に達する。山上からの眺望はなかく佳いところである。

▲觀瀾亭…… 月見崎に在る。元豊太閤伏見桃山の避暑亭を政宗公が貰ひ受け、後江戸の藩邸に移してあつたが、二世忠宗公の代にここに移して月見の御殿といつた。遊覽者の縦覧に供してゐる。建築は流石に古雅なもので、柱は梅の四方柱鴛鴦張りの廊下など全く數奇を凝したものである。掲げた額の『雨奇晴好』の四字は伊達五世吉村公の筆である。昔は藩主の休息所であつた。眺望の佳いことはいふまでもない。明治九年 明治天皇御東巡の折、駕籠を任せられ親しく臨御の榮を賜はつたところである。

▲雄 島——〔千松島〕とも、また〔御島〕ともいふ。「むかし慈覺大師開山の時千株の松を植ゑらる、因て千松島の名あり」と、瑞巖寺百三世夢幻庵和尚の記に見えてゐる。また「吾郷奥州有松島。其側有御島。有庵日妙覺。(中略)見佛上人結卵而居。見佛(中略)日誦法華經。先十二年己滿六萬部。(中略)聲聞朝野。適後鳥羽院當宇。賜本尊器物。以旌異之。其島本名千松島。以見佛承御賜之故。時人乃易今名(後略)」と、今名とは即ち〔御島〕のことをいふたものである。

## ◇瑞 巖 寺

古の松島寺であつて、今から約千二百年前の天長五年、天台宗の僧慈覺大師圓仁の創開せるところである。後北條時頼入道して日本行脚の日、松島に來りて法身窟に入り、法身和尚と約して臨濟宗に改め法身和尚を開山とし、寺號を松島山圓福寺と稱した。爾來東北臨濟宗の大寺として著はる。其の後慶長九年伊達政宗公山門の朽ち果てたのを見て、改修造營を發願し、用材を紀州熊野から取り寄せ、名匠中村日向吉次を紀州から招ぎて棟梁となし、同年八月起工して同十五年に落成したものが今の大伽藍である。落成を慶して山號寺號を添加し松島青龍山瑞巖圓福寺と改めた。

本堂は縦十四間、横二十一間四尺、總欄間の彫刻は太鼓に鶏、鶴の巢籠、牡丹に耳木兔、桐に鳳凰、牡丹に孔雀、紅葉に鹿、菊に金鷄、牡丹に金鷄及孔雀等皆是れ中村日向吉次の作で精巧無比、彩色の極美と共に純桃山式の本堂建築に一層の光彩を加へて居る。



現在瑞巖寺は特別保護建造物として取扱はれてゐる。

### 松島の五大観

松島の勝景は、何んとしても水陸兩方面より観るべきであらう。古來松島には、四大観とて展望廣濶の高所があつた。曰く多聞山の美観、大鷹森の壯觀、富山の麗觀及扇谷の幽觀であるが、更に近來新富山の佳觀を加へて松島の五大観と稱してゐる。

## ◇石巻と金華山

▲石 巻……「三十五反の帆を捲きあげて、行くよ仙臺石の巻」とある通り石巻は古來水運の利に由つて開發した所で、昭和八年四月市政を實施せられた。仙臺を距る十三里、鹽釜を距る九里。陸上は宮城電鐵があり、省線小牛田驛で東北本線に接続し、また陸羽東線で山形縣に通じ、海上は定期船の來往があつて鹽釜及三陸沿岸の要港と連絡する。民風醇厚、市街殷賑、宮城縣下第二の大都邑である。殊に此の地は松島以北から金華山への通路に當るので、遊覽客常に雜踏する。日和山の眺望、牧山の靈蹟、長濱海水浴場、わけても石巻海岸が日本新百景中に當選以來々遊する者絶えず。名物にはもなか、越の雪蒲鉾、つくだ煮等がある。

## ◇金華山

牡鹿半島の東南端鮎川村より山鳥の渡を距て、太平洋中に屹立する一孤島がある。これを遠く望めば宛然大禮帽を伏せたるが如き形、近づき見れば、全島悉く花崗岩から成り、千古斧鉞の入らざる老樹が鬱蒼としてこれを被ふてゐる。山容は自ら五峰に分かれ、更に六十八嶺四十八谿を數へる。

金華山は海拔一千四百六十尺、周圍六里の島で、その中腹に縣社黄金山神社があり、更に絶頂には大海祇神社が祀られてある。

▲黄金山神社……は金山比古命、金山比賣命を祀る。史に「聖武天皇の天平二十一年、陸奥守百濟の敬福初めて黄金を献す、朝廷乃ち幣を諸社に奉じて年號を天平勝寶と改元し、陸奥に三年間の調庸を免す云々」とある延喜式の古社で、明治八年縣社に列せられた。祭典は舊四月初己の日と新曆九月二十五日の兩度で夥しき參詣者がある。

▲鹿山公園……金華山棧橋に上陸して細路を往くこと約三丁、黄金山神社二の鳥居（一の鳥居は金華山の對岸牡鹿半島の東端岬の頂きに建つてゐる）あり、この附近一帯を鹿山公園と稱し、風光頗る明媚牡鹿牝鹿が群をなして來り迎えよく人に馴染むでゐる。更に進むと路は老杉の間を縫ふて通用門を登り三の鳥居から黄金山神社の本殿を見て、左に折れると社務所がある。左手は應接所、右手は神符授與所で、前庭には丹頂の鶴が飼はれ、繪馬堂はその近くに在る。栖鳳閣と呼ぶ貴賓室がある。結構壯麗を極めた建物で、平素は人の入るを許さない、専ら皇族又は外國貴賓の休泊に使用されてゐる。

▲金華山燈臺……島の東南端飽荒崎の岬上（海拔百七十八尺）にある。燈はレツクス式紅白の大回旋



燈で十八萬燭光、海上十九里を照し、別に霧笛を設く、其音響は十四海里に達すると。

## ◇仙臺市附近の温泉郷

宮城縣は、東は太平洋に臨み絶景の松島や、靈島金華山を渺茫たる青波の上に浮べ、藏王、花房、花淵の火山脈を劃して南は福島縣に、西は山形縣に接し、北は秀峰栗駒を隔て、秋田、岩手の兩縣に境して居る。其の間山腹に河畔に平野に幾多の温泉が滾々として湧出して居るが、其の數と種類の豊富なること、鬼首、鳴子の間歇泉の如き實に本縣の誇りとして足るものがある。温泉に杖を引くものは此の天恵に加ふるに、春は翠影に飽くなき眺望、秋は満山錦繡を飾るの紅葉があり、夏は銷夏に登山に、冬はスキーに人々施設を配した野趣たつぶりの温泉情緒が遺憾なく味はれるのである。

今、仙臺を中心として一般に知られてゐる温泉を紹介して見やう。

▲作並温泉……宮城郡廣瀬村にありて仙臺より約七里、仙臺驛より仙山線によりて壹時間餘、自動車にて約一時間半を要する所にして、廣瀬川の清流に沿ひ閉靜なる處で、附近一帯の紅葉は頗る美觀を極め、冬は初心者に好適なスキー場があるので賑つてゐる。泉質は鹽類泉で五十七度で、胃腸病、皮膚病、リウマチスに効く。旅館は岩松、ホテル、丸長の三軒である。

▲秋保温泉……名取郡秋保村に在りて、仙臺長町より秋保電車により一時間を要す。此の温泉は既に王朝時代から、名取の御湯として京都に知られ、叡聞にも達した天下三古湯の一である。昔藩政時代に伊達家の浴館があつて藩主の保養所であつた。名取川に沿つて風光明媚、保養向の温泉場として名高い。附近には硯橋、秋保氏の館址、羽山權現、高さ二十四丈の雌瀧雄瀧で有名な秋保馬場の大瀧など浴後の散策にはお誂向の景勝がある。泉質は弱鹽類泉五十五度で、外傷性諸障害、リウマチス、神経系諸病、脊髄、婦人病に特効あり。旅館は佐勘、岩沼屋、水戸屋、佐藤屋の四軒である。

▲鎌先温泉……は刈田郡福岡村にあり、古來創傷に特効のある名湯として其の名を謳はれた温泉場である。仙臺より東北本線上行にて行き、宮城野信夫の仇討で有名な白石驛で下車し、こゝより二里八丁自動車の便があり、湯は昔硝室有アルカリ性食鹽泉で四十五度乃至五十度、婦人病、腺病、皮膚病、神経痛、リウマチス等特殊に創傷に効く。旅館は一條、木村屋、最上屋、鈴木屋の四軒にして何れも綺麗な内湯を有して居る。

▲小原温泉……刈田郡小原村にあり、白石川の奔流を中に狹める温泉場で、昔から（目に小原）と評判さるゝ程眼病に効く名湯として知られ、浴槽の中から山水の勝景に親める温泉場である。東北本線白石驛の西二里十丁、自動車の便あり、泉質は單純泉と鹽類泉の二種で、疝氣、神経系諸病、婦人病、挫傷、胃腸病、特に眼病には驚くべき効能あり。旅館は桂屋、和泉屋、枕流閣、小原館の四軒である。

▲青根温泉……海拔六千八百尺の藏王山の分嶺、花房山の中腹海拔二千四百尺の地に在る青根温泉は東北本線大河原驛及び白石驛より自動車にて約壹時間餘を要し、眺望頗る好く坐ながら松島や金華山の秀麗な姿を展望することが出来る。新緑の春から青葉の夏にかけて、又紅葉照り映える秋の景色の雄大



なる實に日本百景隨一の勝地である。而も湯の清澄にして豊富なることは青根の誇りである。湯は無色透明單純泉及鹽類泉で五十三度乃至五十四度、神經系諸病、リウマチス、腦諸病、貧血諸病、梅毒、眼病等に效く。旅館は佐藤仁右工門、丹野七兵衛、丹野七三郎、岡崎彌吉の四軒である。

▲蛾々温泉…… 柴田郡川崎村に屬し、仙臺より大河原驛まで汽車、それより軌道、若しくは自動車で遠刈田まで行き、それより先二里十九丁のところは上りくで自動車も車もきかず徒歩で行き、春夏にかけて馱馬の便のみがあり非常に不便を感じて居たが、一昨年より青根、蛾々間の林道が出来た爲め非常に便利となり、更に同旅館では近く小形自動車運轉の計畫を立て、居るから、之が實現の曉は湯治客に便する所大なるものがある。此の温泉は藏王山の中腹にあり、旅館も竹内旅館が一軒あるのみであるが、保養向温泉で附近一帶峻嶺藏王山を背景とせる雄大なる風光に恵まれ、スキー場として著名で、夏季は藏王登山者で賑ふ。泉質は無色透明、鹽類泉で、泉温六十三度、胃腸病、呼吸器病、痲病、婦人病皮膚病に特效がある。

▲遠刈田温泉…… 刈田郡宮村にありて、湯の源は史實に残る金鑛籠山からだと傳へられてゐる。風光秀麗、附近にはスキー場や古典的な傳説に富む名勝地が多く、湯泉情緒の豊なる處である。仙臺より東北本線 upper にて大河原驛へ下車し、軌道自動車の便あり。此處の温泉はラヂウム含有量の多いことは東北第一と稱されてゐる。

▲川渡温泉…… 玉造郡川渡村にあり、硫黄泉、鹽類泉にして温度は四十三度乃至四十五度、仙臺驛より東北本線下り小牛田を経て之より約一時間半を要する。

▲鳴子温泉及玉造八湯…… 宮城縣玉造郡荒雄川の上流沿岸、陸羽東線鳴子驛（仙臺より二時間餘）の附近に、近きは一二丁、遠きは十七八丁の間に所謂玉造八湯と稱する入ツの温泉がある。而して泉質は酸性泉、アルカリ泉、或は弱鹽類泉、硫黄泉といったやうにそれく異つてゐる。従つて泉効もまた異つてゐる。八湯とは、鳴子、河原湯、新車湯、元車湯、赤湯、新赤湯、田中湯、湯坂で、各旅館に内湯があつてそれに色々な名稱があり、世間浴客に知られてゐる。

附錄 業種別著名商店、其他

▲金物類商

種別	住所	屋號	氏名名稱	電話
金物類、セメント	國分町	奥田金物店	奥田未治	三二三
同	南町		株式會社若生本店	一、〇八五 〇八六 四五四
同	新傳馬町	若生金物店	若生榮吉	六二〇
同	名掛町	渡邊金物店	渡邊藤吉	一、七二七















同 同

東一番丁	河原町	元寺小路	東一番丁	南町	北一番丁	花京院通	連坊小路	名掛町	南鍛冶町	名掛町	國分町	小田原遣水丁	同	元寺小路	木町通
甘泉堂	甘泉堂	廣瀬菓子舖	南町日進堂	花月堂	宮城堂	坂本商店	松月堂	越後屋	風月堂	井熊商店	政岡家	萩の花本舖	萩の花本舖	幕田爲五郎	
小松重吉	庄司兵治	森永製品東北販賣株式會社	廣瀬久之丞	平磯正三	庄子とよ	三丸商店	宮城新之助	坂本轟逸	佐藤長藏	佐藤重治郎	齋藤民助	帝國製菓仙臺工場	小林重藏	深川佐藏	
		工場一、六四八	三、二五〇	二、七五五	一、〇八	二、一六五	二、〇一六	三、〇二三	一、五三二	一、〇八九	二、八八一	一、九八八	一、九八八	一、〇九二	

# 仙臺理髮業組合

# 仙臺板金工技組合

新坂通	東九番丁	東一番丁	二日町	國分町	名掛丁	南町通	裏五番丁	名掛丁	東一番丁	國分町	二日町								
小野千秋堂	信川用堂	日出軒	浮世屋	於多福屋	マルカン本舖	玉屋	門間鴻月堂	石河豆屋	鈴木久治郎	驛前玉澤九重總本店	清野間太郎	渡邊勘七	大友幸運	岩手恒三郎	千海一治	高橋庄助	小野鐵之助	兵藤嘉吉	
二、三八〇	二、五二四	三、六一三	三、九五五	二、一一〇	八七〇	五九六	八八〇	三、四三〇	二、六六七	一、一一三	二、八八一	一、九八八	一、〇九二	一、一一二	一、〇九二	一、〇九二	一、〇九二	一、〇九二	一、〇九二







鐵道省指定



仙臺合同運送株式會社

營業部  
倉庫部

代表電話四二三〇番(5) (私設交換)

北仙臺支店 電話八六四番

宮城東七番丁出張所 電話二、八三一番

資本金六拾萬圓 (全額拂込)

昭和十年四月三十日印刷  
昭和十年五月二日發行  
(非賣品)

編輯兼發行人 菅野勝見

仙臺市新寺小路五十七

發行所 東北產業協會

仙臺市新小路七

印刷人 溝口忠次郎

仙臺市新小路七

印刷所 萬成社印刷所



仙臺市大町

### 佐恒商店石炭部

電話三九番

仙臺市裏山本町

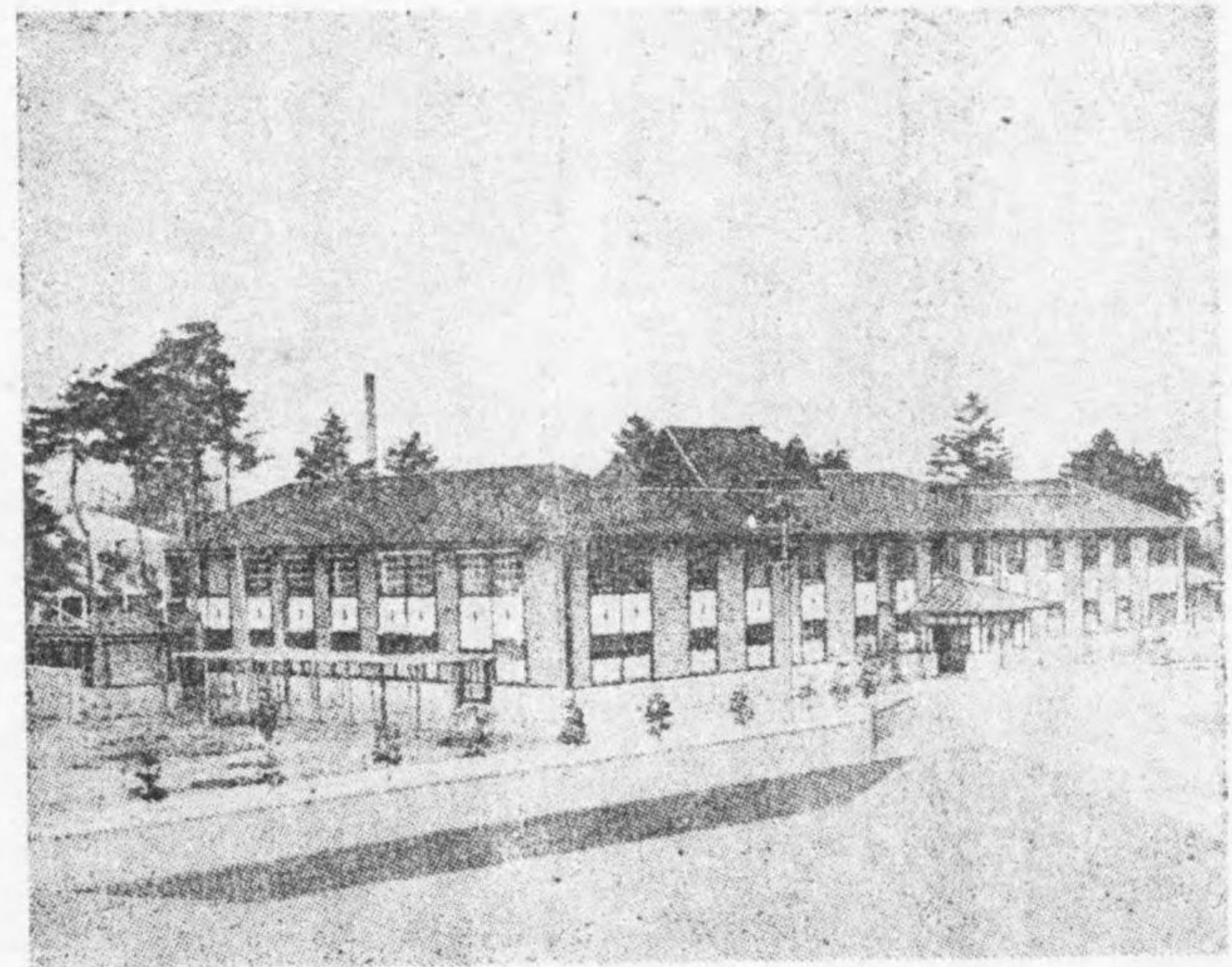
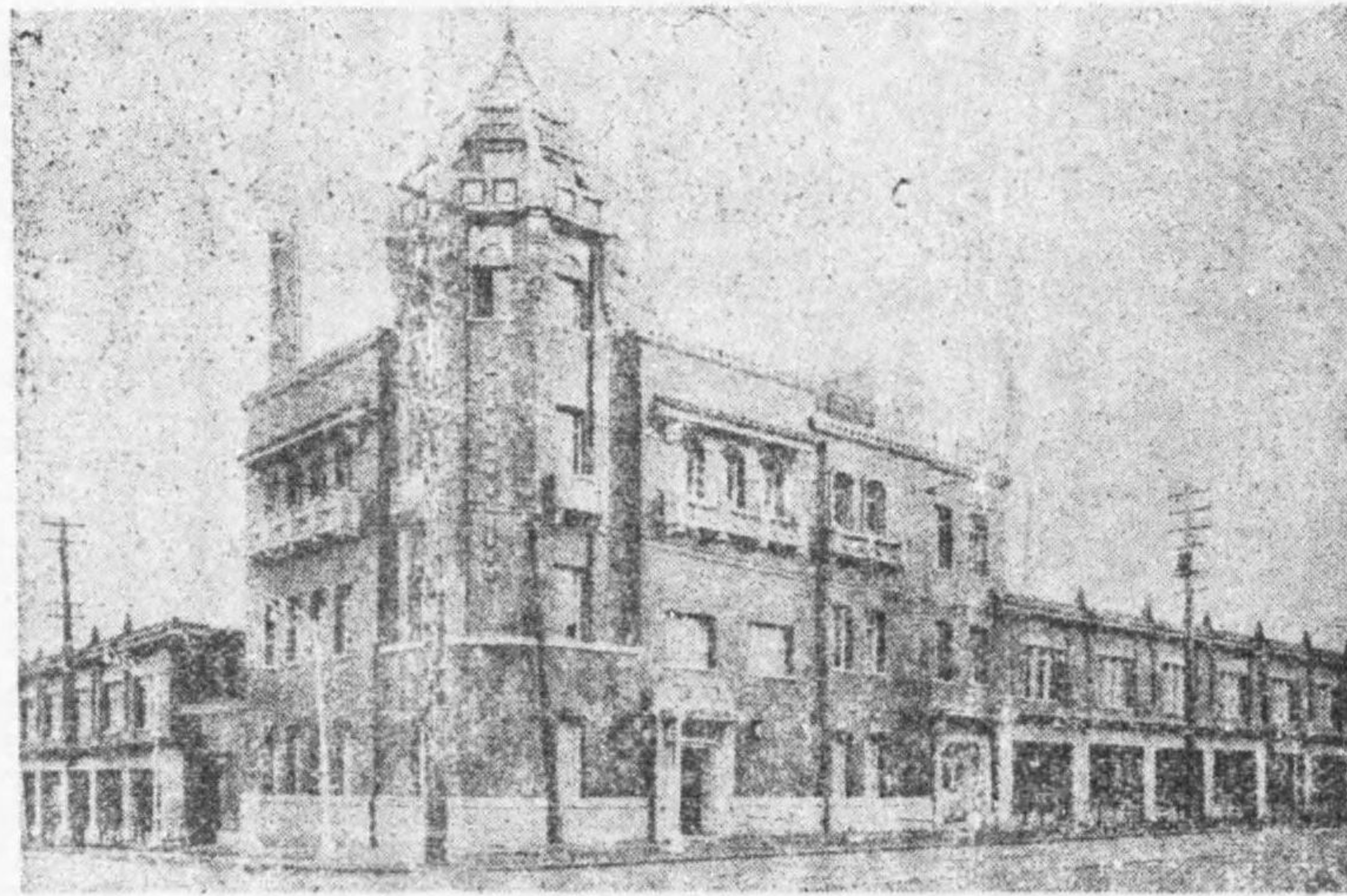
### 梶原搾乳所

電話一三二一番

資産三億三千餘萬圓

## 日本生命保險株式會社仙臺支店

電話一三二九番



閑靜ナル環境豊富ナル常緑樹、新鮮ナル空氣、更ニ附近到ル處日光浴場ト散策地ニ富メル天惠多キ療養地

財團法人

## 向山療養所

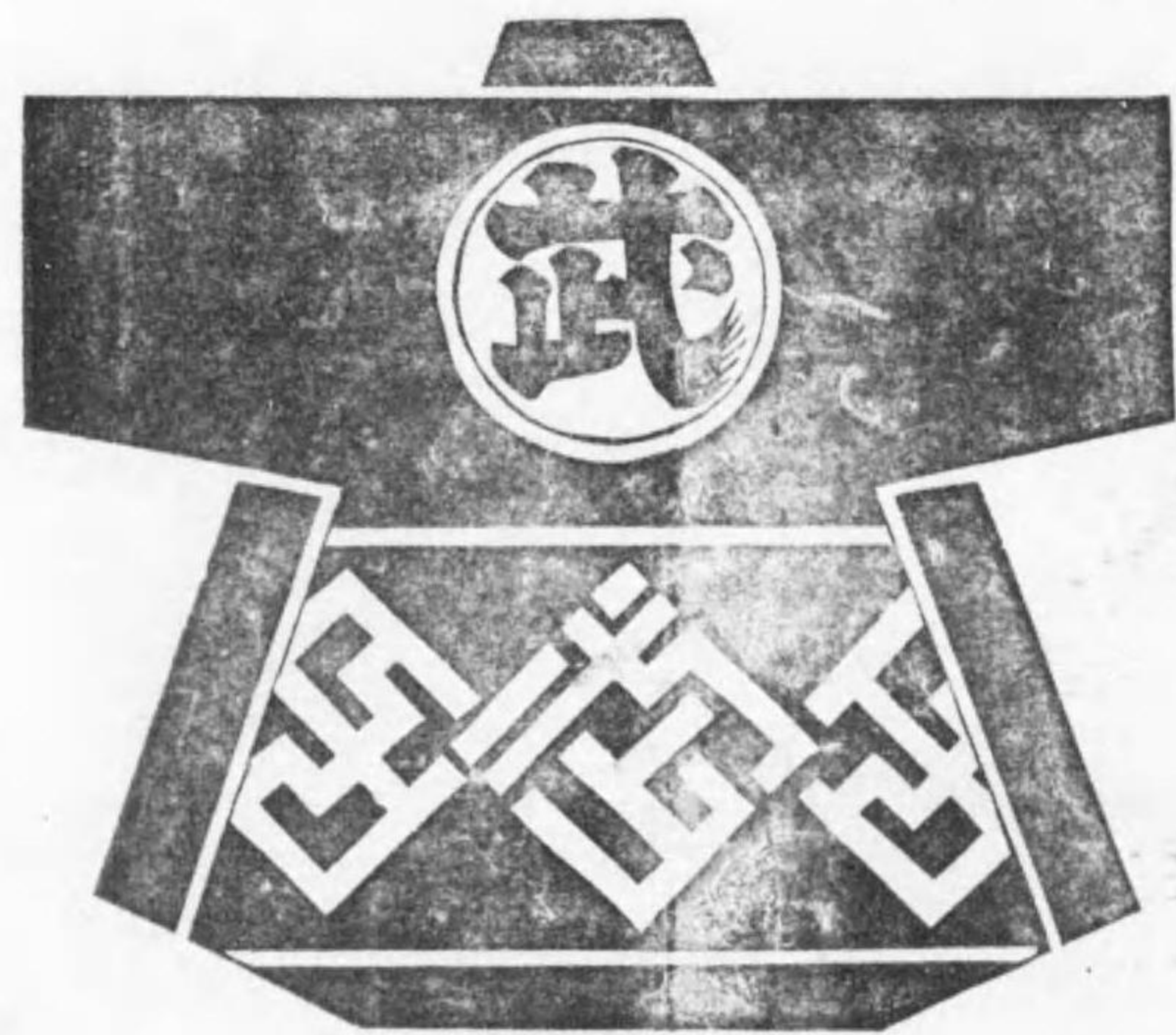
入院隨時

所在地 仙臺市長町宮澤九番地

電話二、一八一番

◆御困りの方には無料入院及診療の御相談に應じます





武田染工場

名入手拭  
 名入タオル  
 印入帆前掛  
 印半天  
 名入風呂敷  
 名入風呂敷  
 袷天用生地  
 旗幕類一切  
 消防用被服一切

仙臺市南材木町

武田染工場

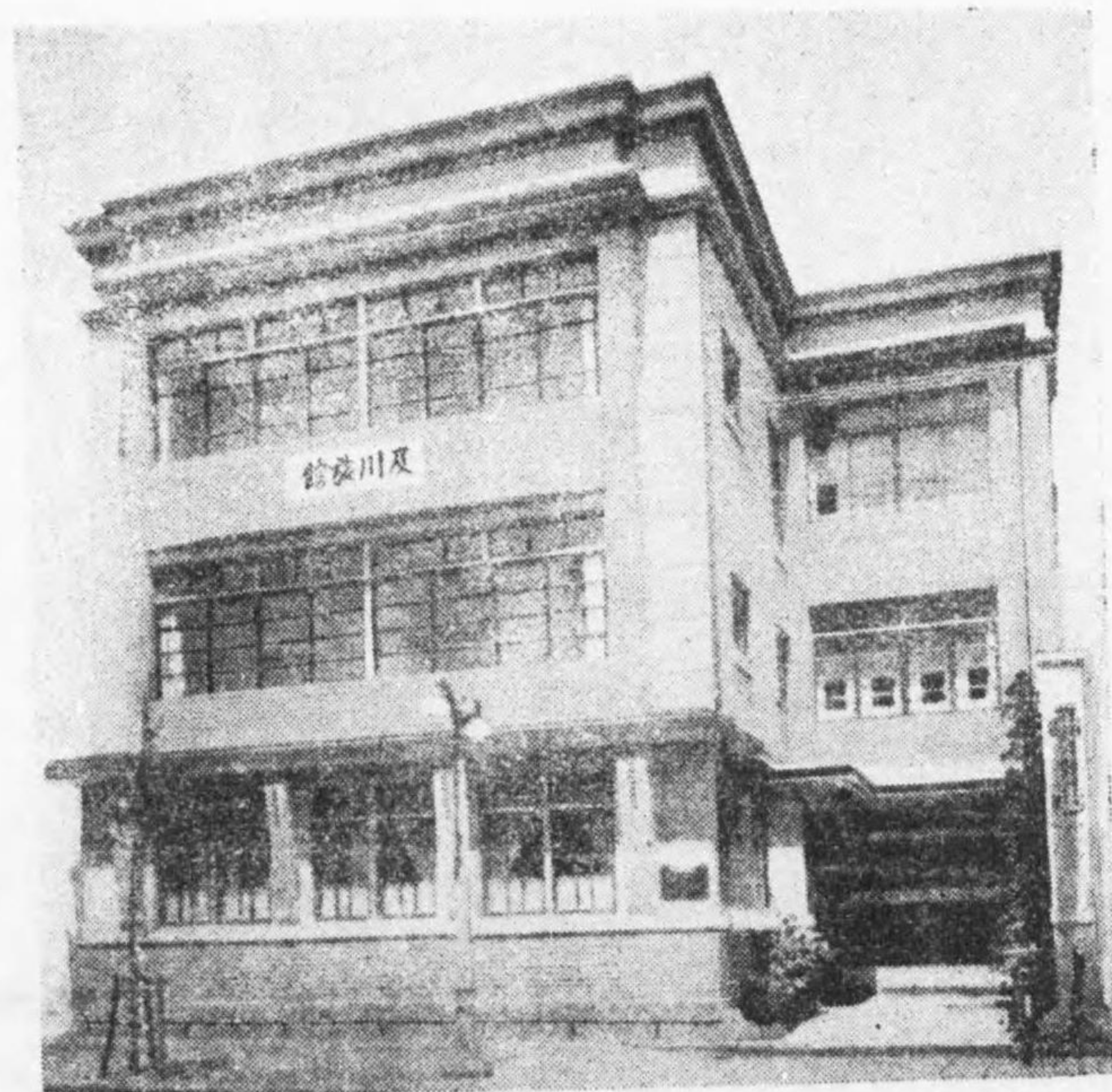
電話四八六番 振替日座仙臺二八二番

遞信省  
 第二師團  
 鐵道省  
 指定旅館

及川旅館

仙臺市多門通り東一角  
 電話九八二番

宿泊料  
 金貳圓  
 金貳圓五拾錢  
 金參圓





割 烹

松

竹

電話 二二六三番  
六七〇番

仙臺市虎屋横丁

割 烹

いります

仙臺市立町通り  
電話 八八五番

明 朗 な る  
高 級 カ フ ェ ー

A I

仙 臺 市 國 分 町

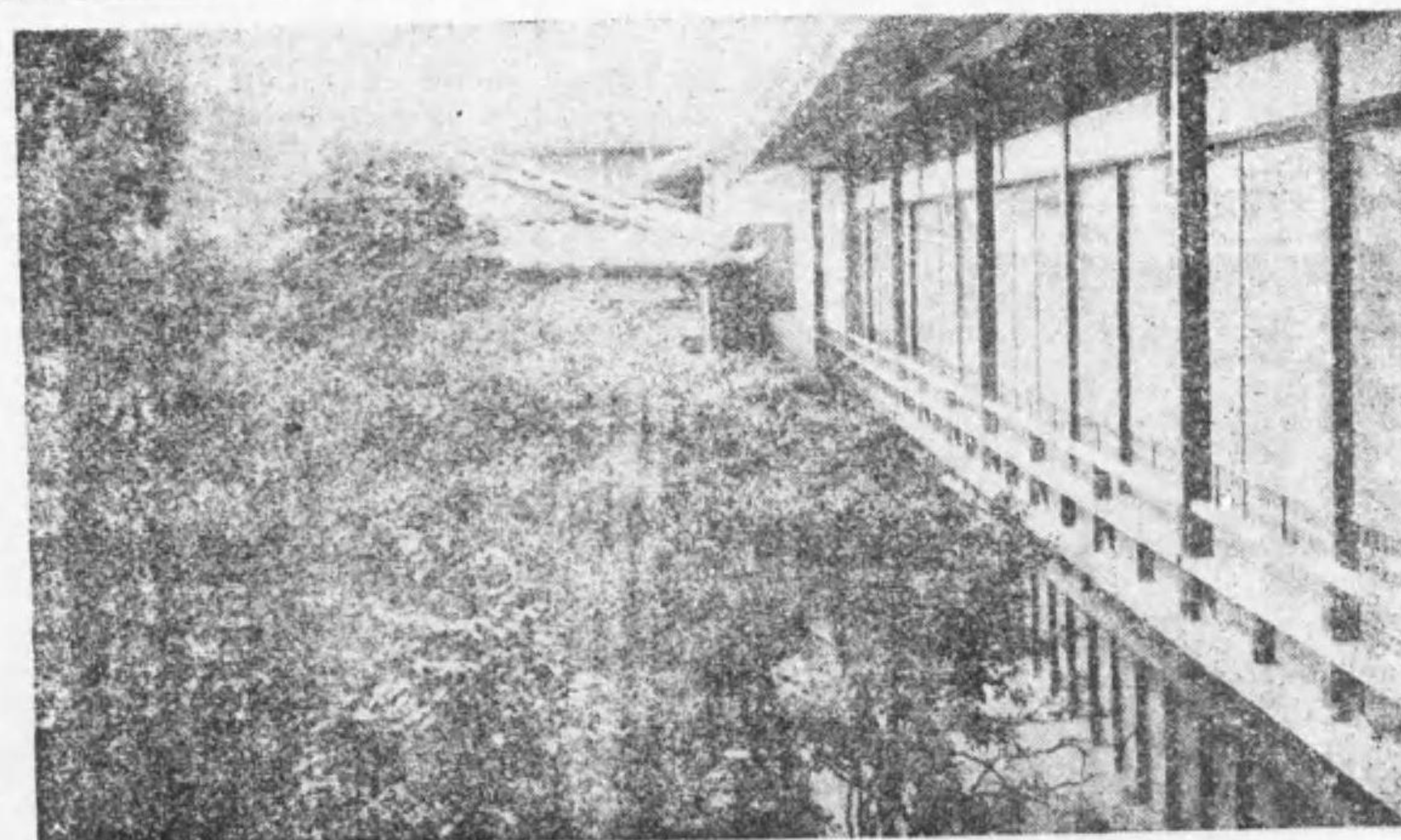
電 話 1 9 0 8

仙臺市東一番丁

宮古川

電話

一三三番  
三五七番  
三三番



東一番丁 割烹 八百 衆 電話三九五番



株式會社

# 東北貯蓄銀行

仙臺市大町五丁目 電話

一〇〇五  
八八九  
五四八  
番番番

頭取 谷井文藏

專務 早川退藏

支取配締人役 矢内竹三郎

仙臺市元寺小路

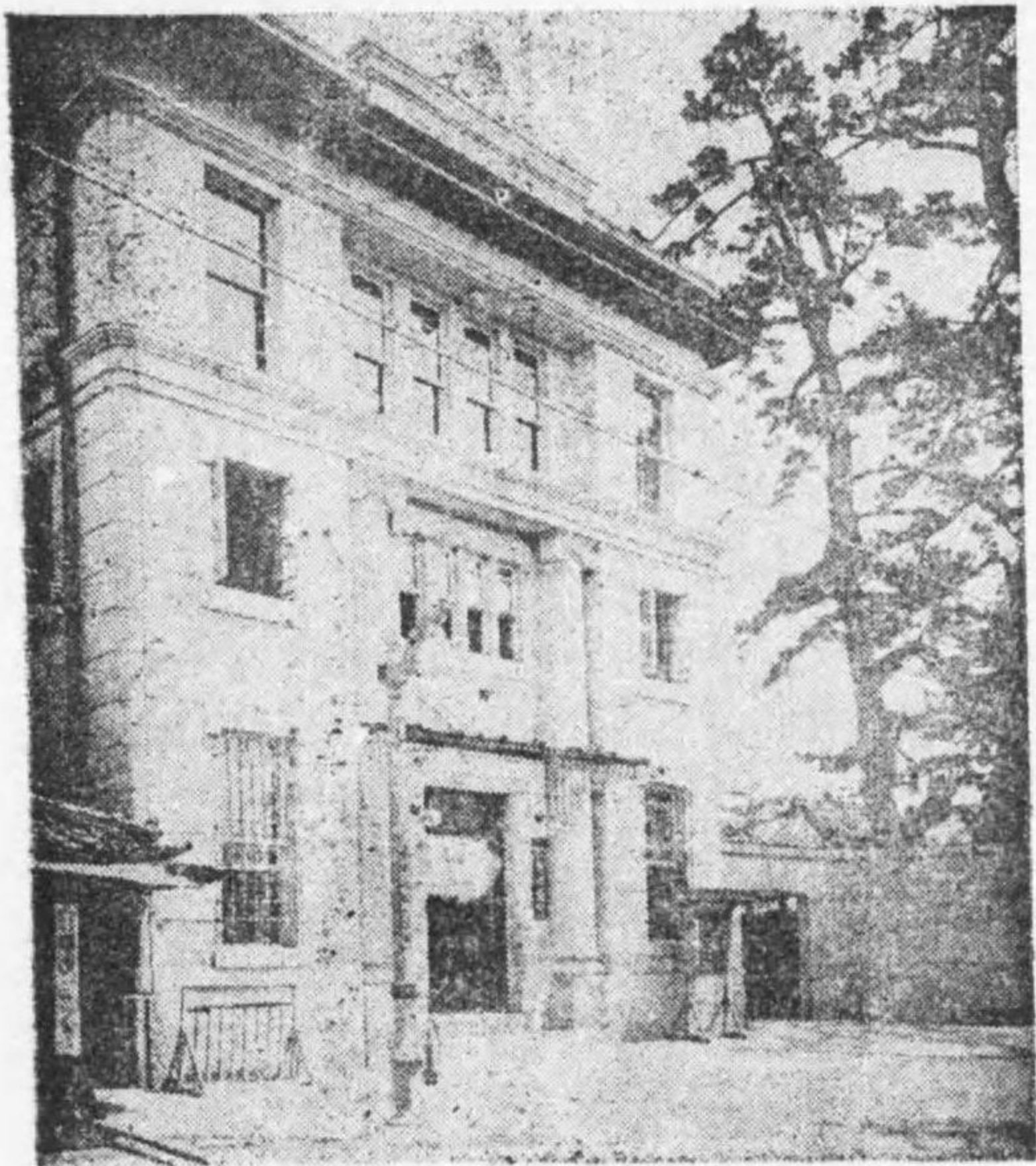
株式會社

# 宮城銀行

電話 二七九番  
三六五一番

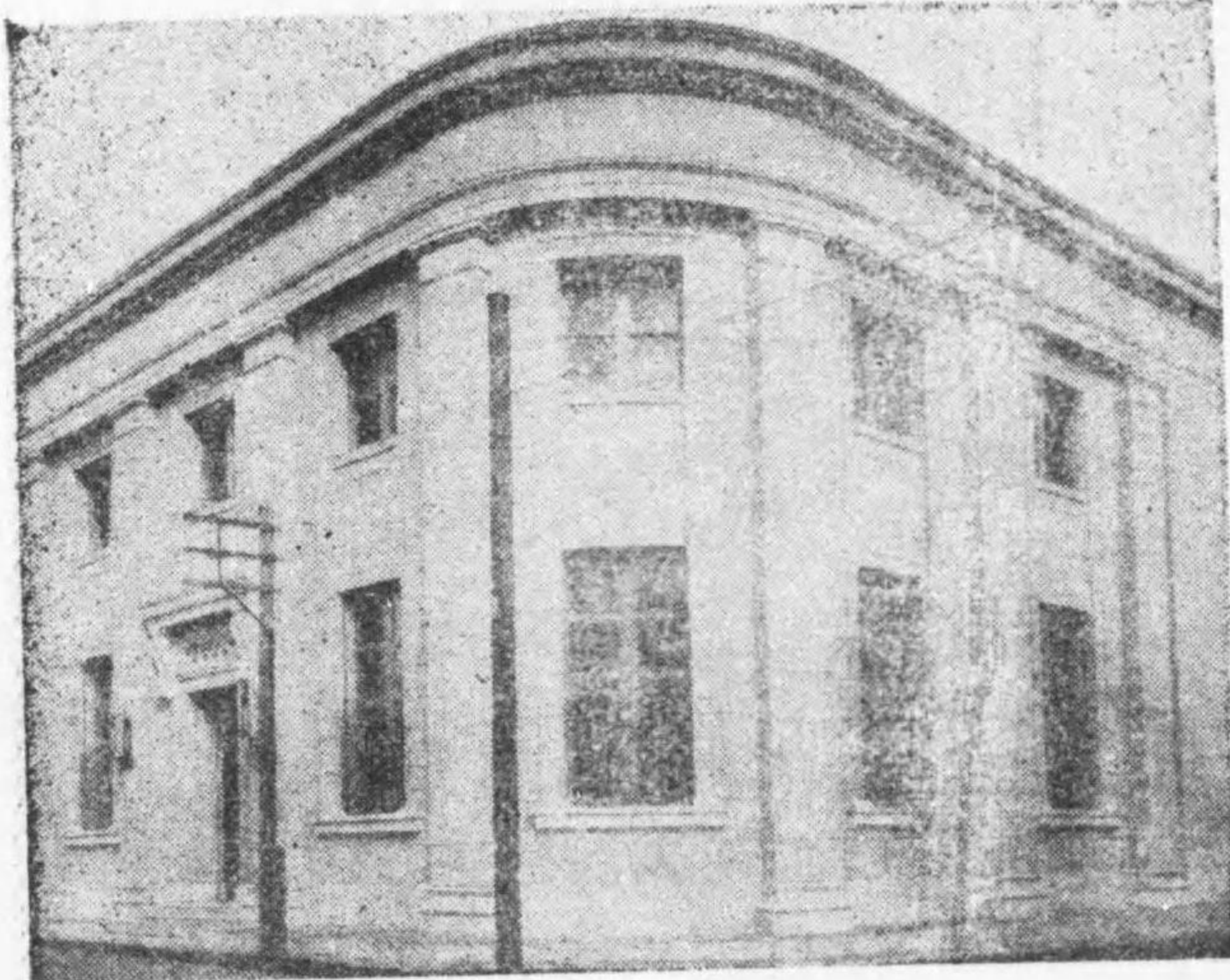
宮城銀行東一番町出張所

(晝夜營業)





資本金八百萬圓



株式會社  
仙臺市東二番丁

不動貯金銀行仙臺支店

電話 四二五二番  
三四二四九番

仙臺市清水小路

仙臺瓦斯株式會社

電話 一六六番

常務取締役 佐藤十兵衛

資本金 壹億五千萬圓  
積立金 六千參百七拾萬圓

仙臺市大町四丁目(芭蕉ノ辻)

安田銀行仙臺支店

本店 東京麹町區大手町一丁目  
支店 全國百四拾餘箇所

電話 五六番  
一三二番  
三五二番  
振替口座仙臺五五番





# 仙臺中央放送局

仙臺市北一番丁  
代表電話三、一〇〇番

淺野セメント株式會社代理店

仙臺市南町

# 宮 若生金物本店

電話  
四十五  
三十八  
五十四  
七十六  
番番番番

三井物産株式會社石炭部代理店  
ゼネラルガソリン特約店

# 板垣金造商店

仙臺市國分町  
電話一五八六番  
二五九四番



營業品目

電氣一般工工事ノ測量  
 設計工事請負  
 電氣器具電球各種販賣  
 ラヂオ用器具材料一式

佐藤電氣工業所

仙臺市停車場前  
 電話(四六一番)  
 (三二四六番)

竹

雀

伊澤酒造店

仙臺市北鍛冶町  
 電話一三二番

割烹

ひ

東一丁目  
 電話三〇番

菊川

森民酒造店

仙臺市荒町  
 電話四三九番



# 床柱天井板

床柱、天井板  
 欄間、銘竹  
 唐竹、名栗、磨  
 丸太、寄木貼  
 キルク、ベニヤ板  
 各種棚板、違棚  
 筆返、イナヅマ台  
 檨材、ラワン材  
 雑木、天井イナゴ  
 テツクス、モールド  
 唐木挽賣、床材一式

床の間用材は  
 なんでも揃ふ専門店

仙臺驛前

## 水島床柱店

電話二三四〇番  
 振替仙臺七三番  
 電略(ミマ)又ハ(ミ)

工場 清水小路通り

お茶は

## 繁田園

東一番丁  
 電話二〇〇一番

家具は

## 丸ほん

東一番丁  
 丸ほん家具店  
 電話一二七七番

東一番丁北部

## 昆野金物店

電話三〇七六番

仙臺市名掛町

## 渡邊金物店

電話一七二七番



終

